平成19年度

事　業　報　告　書

平成19年4月1日～平成20年3月31日

財団法人　日本科学技術振興財団

目　　次

Ⅰ．役員会等…… 1
Ⅱ．科学技術振興事業…… 2
Ⅲ．科学技術館事業…… 3
Ⅳ．情報システム事業…… 5
Ⅴ．所沢航空発祥記念館運営事業…… 6

資　料　編

Ⅰ．役員会等…… 8
Ⅱ．科学技術振興事業…… 13
Ⅲ．科学技術館事業…… 22
Ⅳ．情報システム事業…… 37
Ⅴ．所沢航空発祥記念館運営事業…… 42

平成 19 年度事業報告書

平成 19 年度（平成 19 年 4 月 1 日～平成 20 年 3 月 31 日）は、年度当初の事業計画に基づき所期の目標を達し、成果をあげることができました。

これはひとえに、国、産業界、学会ならびにＪＫＡ（旧日本自転車振興会）、日本財団、日本宝くじ協会など関係各位のご支援、ご協力の賜物と深く感謝申し上げます。

本年度実施しました事業の概要は次のとおりです。

Ⅰ．役員会等

（詳細は別紙資料編　8　ページ参照）

１．会議の開催

(1) 理事会の開催
(2) 評議員会の開催
(3) 会長・副会長会議の開催
(4) 三館連絡会議ワーキンググループ会議の開催
(5) 三財団連絡会議の開催

２．対外機関との連携活動

(1) 賛助員活動
(2) 企業・団体との連携活動

３．建物および建築設備の維持管理

(1) 空調機取替
(2) 催事場改修
(3) 便所器具および内装更新
(4) 給水設備
(5) その他

４．企画広報活動

(1) 企画活動
①科学技術館増改築企画調査
②来館者アンケート調査の実施
③「科学技術館勉強会」の実施
④科学技術館メールマガジンアンケート調査の実施
⑤ＩＳＥＦ2007 の調査
⑥その他

(2) 広報活動
①財団広報誌「ＪＳＦ　Ｔｏｄａｙ」の発行

②科学技術館メールマガジンの発行
③「散歩のおとも」（北の丸公園の自然）の販売
④当財団ホームページのリニューアル

５．その他の活動

(1) 叙勲、国家褒章等の候補者推薦

(2) 館施設の活用
①催事場
②サイエンスホール
③会議室

Ⅱ．科学技術振興事業 （詳細は別紙資料編　13　ページ参照）

１．調査研究事業

(1) エネルギー技術の調査研究
(2) 地方行政・産業界の科学リテラシー向上維持への取組み事例研究
（科学技術振興機構委託研究）

２．普及啓発事業

(1) 映像による科学技術の普及活動
①第 48 回科学技術映像祭の開催　（つくば科学万博記念財団他との共催事業）
②科学技術映像ライブラリー活動
(2) 青少年のための科学の祭典の開催　（文部科学省受託事業、企業・団体の協賛による自主事業）
(3) サイエンスキャンプ 2007 の開催　（科学技術振興機構受託事業）
(4) 理科大好きボランティア支援事業（地域科学技術理解増進人材の活動推進事業）
（科学技術振興機構受託事業）
(5) ＨＦＳＰに係る情報提供業務　（文部科学省請負事業）
(6) 学びんピック（各種大会を活用した児童生徒の学習意欲向上に資する方策に係る調査研究事業）
（文部科学省委嘱事業）
(7) 国際生物学オリンピック日本代表の選考および国際大会派遣の実施
（科学技術振興機構支援事業）
(8) 物理チャレンジおよび国際大会派遣の実施　（科学技術振興機構支援事業）
(9) 第 20 回国際生物学オリンピック（2009 年）の準備　（科学技術振興機構支援事業）
(10) 第 42 回国際化学オリンピック（2010 年）の準備　（科学技術振興機構支援事業）
(11) 日本科学オリンピック推進委員会の事務局業務
(12) キッズ・フロンティア・ワークショップの開催　（新技術開発財団受託事業）

(13) その他の科学技術普及啓発事業

Ⅲ．科学技術館事業　（詳細は別紙資料編　22　ページ参照）

１．科学技術館運営事業

(1) 展示活動

①展示の更新

②展示室の整備

③展示の解説および実演

④入館者の安全管理

(2) 教育普及事業

①サイエンス友の会活動

②パソコン道場運営

(3)「総合的な学習」、「子どもの居場所づくり新プラン」等の支援活動

(4) 調査・研究開発事業

①博物館における環境技術リテラシーの手法に関する調査・研究～3Ｒ技術編～（競輪補助事業）

②巡回型展示「感覚展 Part2」制作　（日本財団助成事業）

③環境・科学教育用ソフト製作普及整備事業　（日本宝くじ協会助成事業）

④JST 地域科学技術理解増進活動推進事業　科学館開発支援　開発・製作等支援業務
（科学技術振興機構受託事業）

(5) 交流事業

①Yerkes Astrophysics Academy for Young Scientists(YAAYS)
（シカゴ大学ヤーキス天文台　NSF 補助金）

②Astronomy Resources Connecting School(ARCS)（シカゴ大学ヤーキス天文台　IMSP 補助金）

③博物館・科学館の魅力を増す星空ライブの常設
（宇宙航空研究開発機構宇宙科学研究本部　科学研究費補助金）

④リアルデータを利用した天体観察教室　（地域科学技術理解増進活動推進事業補助事業）

⑤天体教室 トゥインクル・タイム　（子どもゆめ基金補助事業）

⑥研究観測データとシミュレーションを用いた天文教育の最前線
（サイエンス･パートナーシップ・プロジェクト）

⑦その他の交流事業

(6) 特別展の開催

①夏休み特別展「昆虫力－昆虫から学ぶ科学技術の最先端－」

②特別展「ベビーマンモス『リューバ』展」

③春休み特別展「感覚・体験フィールド」

(7) イベントの開催

①日本ＩＢＭ　TryScience　実験教室
②自然科学写真展―自然の中の不思議を知る―
③2500 万人達成記念式典
④GW イベント「万華鏡工作教室」
⑤WRO　Japan　(World Robot Olympiad Japan) 決勝大会
⑥第 25 回マイクロマウス東日本地区大会
⑦エネルギー学（まな）フェスタ 2007 in 科学技術館
⑧エネルギースクエア’07 秋
⑨第 38 回市村アイデア賞作品展
⑩第 8 回日本万華鏡大賞公募展
⑪第 5 回コンストラクション　ワンダーランド
⑫全国学芸科学コンクール　受賞作品展
⑬実験ジャー・バーチャルファイターショー
⑭科学ライブショー
⑮ミニイベント

(8) 広報活動
①広報
②入館者誘致
③入館者状況
④展示の特別案内

(9) 巡回展事業
①「七つの体験」、「スポーツの科学展」、「トリックアート展」、「感覚フィールド展」、「マグネット展」、「地球環境展」、など、移動展示物の貸出し
②実験ショー、科学演劇の上演

(10) 学芸活動
①科学技術館学芸活動紀要の発行
②博物館連携活動
③学芸員養成活動
④北の丸望遠鏡の運用

(11) 作業部会報告の実現のための活動
①科学技術館活動の定性的評価の実施
②科学技術館における科学技術理解増進活動のための人材確保･強化
③他館とのネットワーク連携について

２．企画開発事業

(1) 教育・文化関連事業
①第 12 回レンガドック活用イベント企画実施支援事業
（レンガドック活用イベント実行委員会受託事業）

②「とっとりサイエンスワールド 2007」イベント主催と運営実施　（鳥取県受託事業）
③倉敷市科学館展示製作　（丹青社請負事業）
④鳥取市歴史博物館常設展示装置点検業務　（鳥取市文化財団受託業務）
⑤青森県立三沢航空科学館メンテナンス業務　（NPO 法人テイクオフみさわ受託事業）
⑥平成 19 年度　環境測定分析統一精度管理調査業務　（日本環境衛生センター受託事業）
⑦船の科学館来館者満足度調査等業務　（日本海事科学振興財団受託事業）
⑧ハンセン病データベース PC 供与業務　（笹川記念保健協力財団受託事業）
⑨平成 19 年度自然環境保全センターの展示設計業務委託（神奈川県自然環境保全ｾﾝﾀｰ受託事業）
⑩平成 19 年度 科学的思考に沿った環境実験プログラムの開発等業務　（環境省受託事業）
⑪大成高校・風のミュージアム展示更新計画　（大成高校受託事業）

Ⅳ．情報システム事業　（詳細は別紙資料編　37　ページ参照）

１．簡易放射線測定器「はかるくん」の貸出し委託業務　（文部科学省受託事業）

２．平成 19 年度電源立地推進調整等事業（放射線教室）　（東北経済産業局受託事業）

３．平成 19 年度原子力安全規制情報広報・公聴事業の委託業務　（経済産業省受託事業）

４．「原子力の日」ポスターコンクール事業　（日本原子力文化振興財団受託事業）

５．平成 19 年度科学技術振興に関する開発研究等補助事業　（競輪補助事業）

６．自主研究開発事業

(1) 他者とのコミュニケーションを支援する博物館遠隔鑑賞システムの研究開発
(2) 博物館における教育情報発信に関する研究

７．受託開発事業

(1) 次世代情報処理システムの研究開発
(2) ＰＬＭおよびその関連システムの研究開発
(3) マルチメディア・データベースシステムの研究開発
(4) 新エネルギーシステムの研究開発
(5) その他

８．情報処理サービス事業

アウトソーシングサービス事業

Ⅴ．所沢航空発祥記念館運営事業　（詳細は別紙資料編　42　ページ参照）

１．展示活動

(1) 展示資料の収集

(2) 展示の更新

①戦後初の純国産ジェット練習機 T1-B 用ジェットエンジン J3 テールパイプの設置

②全展示品の解説装置の更新

③航空遺産の展示新設

④「セスナ T310Q」の操縦装置の改善他

⑤「大型映像館」上映フィルムの更新

⑥収蔵庫の空調システムの設置

(3) 航空遺産資料の調査研究

①保存環境測定システムによる温湿度測定や経年劣化による機体板圧測定他

②中島九一式航空遺産が、財団法人日本航空協会から重要航空遺産として認定

(4) 学芸活動

２．特別展等の開催

(1) 特別展の開催

(2) ミニイベント

３．公開講座の開催

４．格納庫・収蔵庫およびＹＳ－１１機の特別公開

５．「県民の日」記念事業

６．連携事業

７．資料の貸出し

８．航空機インストラクター活動

９．広報活動

１０．入館者状況

平 成 １９年 度 事 業 報 告
資 料 編
目 次

Ⅰ．役員会等…… 8

Ⅱ．科学技術振興事業…… 13

Ⅲ．科学技術館事業…… 22

Ⅳ．情報システム事業…… 37

Ⅴ．所沢航空発祥記念館運営事業…… 42

Ⅰ．役員会等

１．会議の開催

(1) 理事会の開催

①第 202 回　平成 19 年 6 月 19 日

・平成 18 年度事業報告ならびに同決算報告
・常任理事委嘱承認の件
・評議員委嘱承認の件
・顧問委嘱承認の件
・常務理事委嘱承認の件
・常勤役員の有給承認の件
・常勤役員の退職慰労金に関する件
・平成 19 年度補助事業実施に関する件
・平成 19 年度助成事業実施に関する件

②第 203 回　平成 19 年 9 月 21 日

・評議員委嘱承認の件
・平成 19 年度第１・四半期事業実施報告

③第 204 回　平成 19 年 12 月 21 日

・評議員委嘱承認の件
・平成 19 年度第２・四半期事業実施報告

④第 205 回　平成 20 年 3 月 17 日

・平成 19 年度事業計画及び収支予算変更の件
・平成 20 年度事業計画（案）ならびに同収支予算（案）
・評議員委嘱承認の件
・常務理事委嘱承認の件
・常勤役員の有給承認の件
・平成 19 年度第３・四半期事業実施報告

(2) 評議員会の開催

①第 62 回　平成 19 年 6 月 19 日

・平成 18 年度事業報告ならびに同決算報告
・理事選任の件
・平成 19 年度補助事業実施に関する件
・平成 19 年度助成事業実施に関する件

②第 63 回　平成 20 年 3 月 17 日

・平成 19 年度事業計画及び収支予算変更の件
・平成 20 年度事業計画（案）ならびに同収支予算（案）
・理事選任の件

・平成 19 年度第３・四半期事業実施報告

(3) 会長・副会長会議の開催

①第 21 回　平成 19 年 6 月 6 日

②第 22 回　平成 19 年 9 月 13 日

③第 23 回　平成 19 年 12 月 25 日

④第 24 回　平成 20 年 2 月 29 日

(4) 三館連絡会議ワーキンググループ会議の開催

平成 19 年 11 月 5 日

国立科学博物館、日本科学未来館、科学技術館のワーキンググループで、近況報告と今後の連携活動についての会議を開催しました。

(5) 三財団連絡会議の開催

平成 19 年 5 月 31 日

㈶大阪科学技術センター、㈶中部科学技術センター、㈶日本科学技術振興財団の近況報告と、今後の連携活動についての会議を開催しました。

２．対外機関との連携活動

(1) 賛助員活動

財政基盤の安定を図るため、賛助員の拡大に努めました。

(2) 企業・団体との連携活動

財団全体の窓口として、企業・団体との連携拡大に努めました。

３．建物および建築設備の維持管理

下記の工事を実施しました。

(1) 空調機取替

・レストラン客席空調機更新工事

・4 号催事場、サイエンスライブラリー空調機修理

(2) 催事場改修

・2 号･5 号･7 号空調機取替、10 号増強

・1 階催事場雨漏り対策（5・7・8・9 号室内に雨受けを設置）

(3) 便所器具および内装更新

・1 階催事場便所器具および内装更新

・展示棟 2 階女子ﾄｲﾚ改修

(4) 給水設備

・給水管の更新(Ｌ棟本管・高架水槽)

(5) その他

科学技術館利用者サービス向上の一環として、ミュージアムショップ、チケットカウンター、インフォメーションカウンターなど、科学技術館1階エントランスの改装を実施しました。

・ミュージアムショップ

全面ガラスによる空間構成でショップの中を見えやすくし、科学技術館を訪れるすべての人たちが立ち寄りたくなるように配慮しました。

・チケットカウンター

ゲートに映し出させる館内映像・館内情報が来館者の期待感を増幅させ、未来の科学技術への期待を膨らませる効果を生じます。

・インフォメーションカウンター

色彩・マテリアル・ディティールを新規にすることで、「総合案内所」としての機能を高めました。

・その他

一貫した新規サインにより、来館者をスムーズに目的地へと誘うよう配慮しました。

４．企画広報活動

(1) 企画活動

①科学技術館増改築企画調査

科学技術館増改築企画調査については、新館構想も含めて検討を行いました。

②来館者アンケート調査の実施

財団主要事業の評価の一環として､科学技術館来館者に対するアンケート調査を 2 回にわたり、次の通り実施しました。

・1 回目調査実施日：8 月 13 日～8 月 19 日　7 日間（個人来館者対象）

調査内容　　：科学技術館の満足度調査、科学技術に関する意識調査

調査人数　　：社会人　　514 名　、学　生　　503 名　、合　計　1,017 名

・2 回目調査実施日：10 月 22 日～10 月 26 日　5 日間（団体来館者対象）

調査内容　　：1 回目に同じ

調査人数　　：学　生　　703 名

③「科学技術館勉強会」の実施

財団内部強化の一環として、職員・スタッフを対象とした科学技術館勉強会を 3 期にわたり次の通り実施しました。

・第 1 期勉強会

第 1 回	4 月 11 日	博物館の定義等
第 2 回	4 月 26 日	科学技術館の展示、来館者とのコミュニケーション
第 3 回	5 月 10 日	展示ができるまで、展示にもとめられる技術
第 4 回	5 月 17 日	科学技術館の運営、科学技術館の過去・現在・未来

・第 2 期勉強会

第 1 回	10 月 3 日	科学オリンピック、青少年のための科学の祭典
第 2 回	10 月 25 日	サイエンスキャンプ、トライサイエンス
第 3 回	11 月 14 日	ＩＴを活用した科学教育・学習支援、

科学技術館における展示とは何か

第4回　11月21日　科学技術館見学会

・第3期勉強会

第1回　3月4日　科学技術館施設・設備見学会

第2回　3月13日　財団を支える賛助会社の現状と課題､公益法人制度改革の概要、財団経営の現状と課題

④科学技術館メールマガジンアンケート調査の実施

メールマガジンの会員に対して、メールマガジンに関するアンケート調査を次の通り実施しました。

・調査実施日：12月13日～1月31日

・調査方法　：メールマガジン誌上にアンケート内容を提示し、専用ホームページで回答してもらいました。

・調査人数　：427名

⑤ＩＳＥＦ2007の調査

ＩＳＥＦ2007に関する日本の参加状況（組織や体制等）の調査ため、開催地である米国ニューメキシコ州アルバカーキーに出張し、調査を行いました。（調査期間：5月16日～5月21日）

⑥その他

国立科学博物館と連携し、科学技術館サイエンス友の会において、科学リテラシー育成のためのプログラムを開発・実施しました。

・実施日：平成20年1月27日、2月23日（2日間）

・内　容：風車でわかる電気エネルギー

(2) 広報活動

①財団広報誌「ＪＳＦ　Ｔｏｄａｙ」の発行

「ＪＳＦ　Ｔｏｄａｙ」を次の通り発行し、理事、評議員をはじめ関係先に配布しました。

・104号（H19年5月）特集：「全国の科学するココロ」を応援する　科学技術館巡回展レビュー

・105号（H19年7月）特集：「夏休みは家族そろって科学技術館で実験づくし！！」

・106号（H19年10月）特集：「科学技術館多機能ロビー”エリアG“を探れ！」

・107号（H20年1月）特集：お父さんもお母さんも会員だった！ 科学技術館サイエンス友の会

②科学技術館メールマガジンの発行

毎週水曜日に科学技術館メールマガジンを発行し､財団･科学技術館の情報を配信しました。

・127号～176号　会員数　3月末現在　6,507名

③「散歩のおとも」（北の丸公園の自然）の販売

・草木編　905冊

・動物編　524冊

（合計　1,429冊）

④当財団ホームページのリニューアル

より魅力あるホームページにするため、財団ホームページをリニューアルしました。

５．その他の活動

(1) 叙勲、国家褒章等の候補者推薦

①紺綬褒章の受章　　東レ㈱

②平成 20 年度科学技術分野の文部科学大臣表彰科学技術賞（理解増進部門）

山田　英徳　　科学技術館副館長

(2) 館施設の活用

催事場、サイエンスホール、会議室を新技術の普及の場として運営しております。

本年度の主な出展、利用件数は次のとおりです。

① 催事場

・青少年のための科学の祭典
・くらしを支える科学と技術展
・法務省　矯正展
・特許・情報フェア
・弦楽器フェア
・自転車のヘルメット展

他 73 件　　合計　79 件

② サイエンスホール

・科学技術映像祭
・世界禁煙デー　シンポジウム
・中学校理科研究発表会
・日本風力エネルギーシンポジウム
・海外、国内ロングステイフォーラム
・環境研究セミナー

他 259 件　　合計 265 件

③ 会議室

・風力発電システム技術講習会
・国際情報分析セミナー
・夏休み親子体験学習会
・原子力体験セミナー
・安全安心な学校づくりセミナー

他 884 件　　合計 889 件

Ⅱ．科学技術振興事業

本事業では、科学技術の振興に役立つ諸活動を展開しています。
活動内容としては、科学技術振興活動などに関する調査を行う「調査研究事業」と、映像による科学技術の普及活動、青少年を対象とした科学技術体験型イベントや、技術者・研究者を対象としたシンポジウムの開催等による「普及啓発事業」の２つに分かれています。
今年度実施した主な事業は次のとおりです。

１．調査研究事業

(1) エネルギー技術の調査研究

エネルギー変換懇話会の活動の一環として下記の活動を行いました。

3 月 7 日　第１回エネルギー変換懇話会シンポジウムを開催しました。「地球温暖化対策に寄与するエネルギー技術の本質を問う」というテーマのもとで、各界から 54 名の参加者があり、活発な議論が展開されました。(於:科学技術館第一会議室)

(2) 地方行政・産業界の科学リテラシー向上維持への取組み事例研究

(科学技術振興機構委託研究)

1 月 13 日～14 日　3 年間に渡る研究の成果を広く普及するために、「子どもを 学校を 地域を変える！」と題したシンポジウムを東京理科大学で開催しました。

・基調講演　有馬朗人（当財団会長）

・パネルディスカッション

「理科の授業を支援する新しい試みー理科支援員・特別講師の初年度成果」

佐々木亨（文部科学省科学技術学術政策局基盤政策課）

守本憲弘（経済産業省経済産業局産業人材参事官室）

大木茂（科学技術振興機構理数学習支援部理科学習支援課）

高安礼士（千葉県教育センター）

曾我部國久（出雲科学館長）

・ポスターセッション

・パネルディスカッション「科学で地域づくり実践事例」

小金井市「科学でまちづくり東京・小金井からの発信」

滝川洋二（東京大学）他

熊本県「日本最大2日で5万人集客の科学の祭典の作り方」

佐藤成哉（愛知淑徳大学）他

豊田市「動き始めたものづくり文化のまち構想」

緒方秀充（豊田市社会部生涯学習課）

古河市「地域を変えた総和おもしろ科学の会」長浜音一（古河市市議会議員）

北海道「どうやって科学の祭典を23会場に広めたか」

齋藤孝（北方圏理科教育振興協会）

・研究報告

「科学ﾘﾃﾗｼｰ研究の現状とこれから」北原和夫（ICU、日本学術会議）

「世界の理科教科書と日本の比較」

石渡正志（NPO法人理科カリキュラムを考える会）

「科学webの現状について」古田豊（立教新座中学高等学校）

「科学ボランティア」山田善春（大阪市立高等学校）

２．普及啓発事業

(1) 映像による科学技術の普及活動

①第48回科学技術映像祭の開催　　（つくば科学万博記念財団他との共催事業）

科学技術映像祭は、優れた科学技術に関する映像を推奨し、科学技術の普及と向上を図ることを目的とするもので、当財団と㈶つくば科学万博記念財団、㈶日本科学映像協会、㈳映像文化製作者連盟の4者共催により実施しました。応募された83作品（映画46本、テレビ番組34本、インタラクティブ特別部門3本）のうち下記の優秀作品16本を推奨しました。

4月19日に科学技術館サイエンスホールで表彰式を開催すると共に、19・20日の両日、入選作品の上映会を行いました。

◆内閣総理大臣賞（1 作品）

ポピュラーサイエンス部門

・テレビ　　ＮＨＫスペシャル　神秘の海　富山湾　～海の中までアルプスがつづく～

企画・制作　日本放送協会

◆文部科学大臣賞（14作品）

科学教育部門	3 作品
基礎研究部門	2 作品
科学技術部門	3 作品
医学部門	3 作品
ポピュラーサイエンス部門	3 作品

◆審査委員長特別賞（1 作品）

マルチメディア特別	1 作品

また、つくばエキスポセンター他13会場において「第48回科学技術映像祭」入選作品の上映会を行いました。

②科学技術映像ライブラリー活動

今年度の映像ライブラリー貸出状況は次の通りです。

・貸出件数　　9件
・貸出本数　　22本
・映画会回数　　17回
・観覧延人員　　864人

(2) 「青少年のための科学の祭典」の開催

（文部科学省、青少年のための科学の祭典実行委員会との共催事業）

文部科学省受託事業である全国大会および地方 4 大会（北海道、福井県、鹿児島県、岐阜県）の実行委員会を組織し、開催しました。

＜文部科学省受託事業＞　参加者　合計　76,505人

東京都・全国大会	7月27日（金）～　7月30日（月）
北海道・小樽大会	10月27日（土）～ 10月28日（日）
福井県・福井大会	11月23日（金）～ 11月24日（土）
鹿児島県・鹿児島日置大会	12月22日（土）～ 12月23日（日）
岐阜県・岐阜大会	3月 1日（土）～　3月 2日（日）

一方、企業・団体の協賛による自主事業(当財団と各大会実行委員会等とで主催)として、下記の通り、全国で96大会を開催しました。当財団は開催ノウハウの提供・指導や資金的な分担を行っています。

＜自主事業＞　　参加者　合計　351,748 人

北　海　道		22大会
東　　北	青森・秋田・山形・宮城	4大会
関東甲信越	茨城・千葉・神奈川・東京・山梨・長野・新潟	21大会
東海・中部	静岡・愛知・岐阜・三重・富山・福井	16大会
近　　畿	滋賀・京都・大阪・奈良・和歌山・神戸	13大会
北陸・中国	島根・岡山・広島・山口	6大会
四　　国	徳島・香川・愛媛・高知	6 大会
九　　州	長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島	8 大会

(3) サイエンスキャンプ 2007 の開催　　（科学技術振興機構受託事業）

次代を担う高校生、高等専門学校生 (1～3 年) に、科学技術を身近なものと感じてもらうため、科学技術体験合宿プログラム「サイエンスキャンプ 2007」を夏休み、冬休みおよび春休みに開催しました。

広報活動としてポスター、募集要項等を作成し、全国の高等学校および高等専門学校へ送付すると共に、ホームページ等での広報を行いました。

その結果、2,695名の応募者があり、選考の結果、972名が参加して、大学、公的研究機関、民間企業の74会場で科学技術体験合宿が開催され、最先端の科学技術の現場を体験しました。

＜サマー・サイエンスキャンプ＞

（会場数　45　　応募者数　1,284名　　参加者数　595名）

国公立大学　　9会場

私立大学　　3会場

公的研究機関　30会場

企　　業　　3会場

＜ウインター・サイエンスキャンプ＞

（会場数　9　　応募者数　514名　　参加者数　131名）

国公立大学　　6会場

私立大学　　1会場

公的研究機関　　2会場

＜スプリング・サイエンスキャンプ＞

（会場数　20　　応募者数　897名　　参加者数　246名）

国公立大学　　2会場

私立大学　　6会場

公的研究機関　　4会場

企　　業　　8会場

(4) 理科大好きボランティア支援事業（地域科学技術理解増進人材の活動推進事業）

（科学技術振興機構受託事業）

科学実験教室の開催を希望する「理科大好きボランティアへの支援」を541回実施しました。また、理科大好きボランティア研修会を3ヶ所（東京、北海道、大阪）で実施しました。

・活動実施支援

今年度は「ボランティア支援」の受付が620回、実施が541回でした。実施活動視察を4会場で行いました。

・理科大好きボランティア研究会

理科大好きボランティアを対象として、更なるスキルアップおよび全国各地のボランティア同士の情報交換を図るため、下記の研究会を開催しました。

6月30日～7月1日	科学技術館	参加者71人、子供38人、保護者31人
10月13日～14日	北海道大学	参加者39人、子供41人、保護者30人
12月1日～2日	大阪市立科学館	参加者44人、子供32人、保護者21人

・理科大好きボランティアニュース

上半期と下半期の2回に分け、実験メニュー紹介、実験の感想、開催状況をホームページ上で紹介し、地域科学技術理解増進人材の活動推進を図りました。

また、広報の一環として案内パンフレットを作成し、「青少年のための科学の祭典」開催会場での配布と共に日本全国の児童館、科学館等に配布しました。なお、本業務の最終年度として、理科大好きボランティア支援報告書を作成しました。

(5) ＨＦＳＰに係る情報提供業務　（文部科学省請負事業）

ＨＦＳＰ（ヒューマン・フロンティア・サイエンス・プログラム）の関連情報を日本国内の研究者等に情報提供するため、ホームページを作成し広報活動を行いました。

長期フェローシップ､学際的フェローシップおよび研究グラントの募集要項の掲載を行うとともに、Neuro2007（第30回日本神経科学大会、第50回日本神経化学会大会、第17回日本神経回路学会大会）、BMB2007（第30回日本分子生物学会年会、第80回日本生化学会大会）、第45回日本生物物理学会年会の会場にてHFSPの広報活動を行いました。

また、研究グラント受賞者および長期フェローシップ受賞者による最新の研究内容を紹介する「ニューズレターNo.21」を発行しました。

(6) 学びんピック（各種大会を活用した児童生徒の学習意欲向上に資する方策に係る調査研究事業）　（文部科学省委嘱事業）

「学びんピック」とは、児童生徒が様々な力を競い高め合う文化的な全国的規模の大会等を文部科学省が認定し支援する事業です。

平成19年度認定大会の広報の一環として､月１回の割合で定期的にメールマガジンを発行しました。平成20年度大会「学びんピック」の募集を1月16日に開始し、1月31日に平成20年度大会の募集を締切り、3月3日に委員会を開催し74件を認定しました。認定後、ポスター・ちらしを3月末に日本全国の小・中・高等学校、認定大会主催者、マスコミ等に送付しました。

(7) 国際生物学オリンピック日本代表の選考および国際大会派遣の実施

（科学技術振興機構支援事業）

①第 18 回国際生物学オリンピック（以下「IBO2007」）日本代表の派遣

IBO2007（期間：2007 年 7 月 15 日～22 日　開催国／都市：カナダ／サスカトゥーン）に派遣する日本代表 4 名を決定し、平成 19 年 4 月 24 日に発表しました。

日本代表 4 名に対しては、日本の高校生が特に対応しにくい分野を強化するため、国際生物学オリンピック日本委員会の訓練部会が中心となり、東京大学において合宿集中講義を 2 回行ないました。参加成績は、銀メダル 1、銅メダル 3 で、選手全員がメダルを獲得しました。

◆第 18 回国際生物学オリンピック日本代表選手団と選手成績

＜日本代表選手＞

銀メダル	濱崎　真夏	フェリス女学院高等学校（神奈川県）2 年生
銅メダル	仮屋園　遼	筑波大学附属駒場高等学校（東京都）3 年生
銅メダル	竹内　準二	奈良工業高等専門学校（奈良県）　3 年生
銅メダル	本多健太郎	愛知県立岡崎高等学校（愛知県）　3 年生

＜引率役員＞

沼田　治	筑波大学大学院生命環境科学研究科 教授（JBO 運営副委員長）チームリーダー
齋藤　淳一	東京学芸大学附属高等学校大泉校舎 教諭（JBO 国際部会）チームリーダー
松田　良一	東京大学大学院総合文化研究科 准教授(JBO 庶務広報部会)Official IBO coordinator

奥田　宏志　芝浦工業大学柏高等学校 教諭（JBO 作題部会）オブザーバー
和田　洋　　筑波大学大学院生命環境科学研究科 准教授（JBO 作題部会）オブザーバー
長谷川仁子　NPO 法人　日本サイエンスサービス（JBO 国際部会）オブザーバー
佐藤　忍　　筑波大学大学院生命環境科学研究科 教授・生物学類長オブザーバー
溝口　剛　　筑波大学大学院生命環境科学研究科 准教授オブザーバー
岩本　浩二　筑波大学大学院生命環境科学研究科 準研究員オブザーバー

②第 19 回国際生物学オリンピック（以下「IBO2008」）日本代表選考の実施

平成20年7月にインドで開催されるIBO2008に派遣する日本代表選手選考としての国内第1次選考試験を平成19年11月23日(祝)に全国57ヵ所（前年は30ヵ所）の大学、高等学校で実施しました。第1次選考の応募者は1,488名で前年の963名から大幅増となりました。第1次選考の結果から選抜された成績優秀者25名に対し、平成19年12月25日から27日までの2泊3日の合宿による第2次選考試験を東京大学大学院総合文化研究科において行い、10名を選抜しました。更に平成20年3月15日から16日の2日間、科学技術館において最終選考試験を行い、日本代表選手4名を決定しました。

＜第 19 回　国際生物学オリンピック　インド大会　日本代表選手＞（氏名 50 音順）

内海　邑	千葉県立東葛飾高等学校	3 年生
海老沼　五百理	筑波大学附属駒場高等学校	3 年生
大河原　健太郎	麻布高等学校	2 年生
水野　俊一郎	福井県立藤島高等学校	3 年生

4 名の日本代表に対しては平成 20 年 3 月 28 日から 30 日までの間、国際大会参加に向けての合宿型強化訓練が行なわれ、7 月の国際大会までに逐次訓練が実施されます。

また、これまで実施してきた日本代表選考会の名称を改め、2008 年より全国生物学コンテスト「生物チャレンジ」とし、20 歳未満で大学に入学する前の青少年を対象に、生物学の持つ面白さ楽しさを体験してもらうことを目的とする全国規模のコンテストに衣替えしました。

第1回全国生物学コンテストとして「生物チャレンジ2008」を実施するにあたり、参加者募集ポスター、募集要項、チラシを全国の高等学校のほか都道府県教育委員会、政令指定都市教育委員会、ならびに全国の科学館に郵送し、参加募集を3月より開始しました。（1次試験は平成20年7月20日に実施されます。）また、「生物チャレンジ2008」は平成21年7月に茨城県つくば市で開催される第20回国際生物学オリンピック（IBO2009つくば）に派遣する日本代表選考を兼ねており、全国の生徒たちの積極的なチャレンジを期待するところです。

(8) 物理チャレンジおよび国際大会派遣の実施

（科学技術振興機構支援事業）

①第 38 回国際物理オリンピック（以下 IPhO2007）日本代表の派遣

平成 19 年 4 月 24 日、IPhO2007 日本代表 5 名を発表し、同年 7 月 13 日～22 日にイラン／イス

ファハンで開催された IPhO2007 に派遣しました。参加成績は、国際物理オリンピックではわが国初めてとなる金メダルを 2 名が獲得したほか、銀メダル 2 名、銅メダル 1 名でした。参加した選手 5 名が全員メダル獲得という素晴らしい成果をあげることができました。日本代表選手団は、選手 5 名のほか大学教授・高校教諭などからなるリーダー、サブリーダー各 1 名、オブザーバー4 名、計 11 名によって構成しました。

IPhO2007 日本代表選手団と選手成績

＜日本代表選手＞

金メダル	高倉　　理	灘高等学校（兵庫県）3 年生
金メダル	村下　湧音	灘高等学校（兵庫県）2 年生
銀メダル	増田　賢人	麻布学園麻布高等学校（東京都）3 年生
銀メダル	森田　悠介	筑波大学附属駒場高等学校（東京都）3 年生
銅メダル	西口　大貴	大阪星光学院高等学校（大阪府）3 年生

＜引率役員＞

原田　　勲	岡山大学大学院自然科学研究科
長谷川修司	東京大学大学院理学系研究科
北原　和夫	国際基督教大学
鈴木　　亨	筑波大学附属高等学校
杉山　忠男	河合塾
田中　忠芳	松本歯科大学

② 第 39 回国際物理オリンピック（以下 IPhO2008）日本代表候補者の教育研修

IPhO2008 日本代表候補者 9 名に対し、平成 19 年 10 月から平成 20 年 2 月までインターネットと郵送を利用した通信添削トレーニングを実施しました。そのトレーニングに並行して実験実習を中心とした 3 泊 4 日の冬休み合宿研修および春休み合宿研修を実施しました。春休み合宿では日本代表最終選考試験を行い、その試験とそこまでの教育研修成績を総合的に評価して IPhO2008 に派遣する日本代表 5 名を選出しました。

＜IPhO2008 日本代表＞　（氏名 50 音順）

赤堀将太郎　洛南高等学校（京都府）3 年
松久　勝彦　東海高等学校（愛知県）3 年
松元　叡一　筑波大学附属駒場高等学校（東京都）3 年
村下　湧音　灘高等学校（兵庫県）3 年
吉田　周平　広島大学附属福山高等学校（広島県）3 年

③第 3 回全国物理コンテスト「物理チャレンジ 2007」の開催

平成 19 年 3 月、全国の高等学校、中等教育学校及び高等専門学校約 5,200 校、ならびに都道府県教育委員会および政令指定都市教育委員会、また全国の主要科学館に対し、ポスター、募集要項およびチラシを送付し、第 3 回全国物理コンテスト「物理チャレンジ 2007」開催告知を行い、参加者を募りました。4 月 1 日～20 日の間に参加申込みのあった 424 名に対して第 1 次

選考となる理論問題コンテスト受付票（受験票）と実験課題を送付しました。理論問題コンテストは、平成19年6月10日（日）に全国51の会場で実施し、312名が受験しました。実験課題に対するレポートは、6月4日の締切りに対し、285名から提出がありました。理論問題コンテストは、昨年までの郵送通信式の出題と異なり、90分間の会場試験方式となったため、高校物理を履修していない生徒へも配慮した問題作成と出題方法がとられ、コンテスト会場には教科書・参考書等の持ち込みを可としました。理論問題コンテストを受験し、かつ実験課題レポートを提出した参加者の総合成績をもとに第2次選考に進む99名を選抜しました。

物理チャレンジ2007参加者学年別内訳（　）は前年　《　》は前々年

小学校		1名	(0)	《2》
中学校	1年生	1名	(1)	《0》
	2年生	2名	(2)	《2》
	3年生	18名	(8)	《8》
高　校	1年生	19名	(39)	《14》
	2年生	133名	(152)	《94》
	3年生	248名	(261)	《154》
卒業生		2名	(3)	《5》
合　計		424名	(470)	《282》

物理チャレンジ2007参加者性別内訳（　）は前年《　》は前々年

男　性	378名	(389)	《250》
女　性	46名	(81)	《32》

第2次選考は、平成19年7月29日～8月1日に合宿形式（3泊4日）で筑波大学および茨城県つくば市を会場として開催しました。ここでは理論・実験ともそれぞれ5時間の試験を実施しました。また、会期中には試験だけでなく第一線の科学者・研究者との交流の機会や最先端研究施設の見学視察も盛り込みました。加えて物理に対して同じ志を持った参加者同士の交流も積極的に図られました。

第2次選考の結果、金賞7名、銀賞12名、銅賞12名、優良賞14名の受賞者を決定しました。金、銀、銅、および優良賞受賞者45名のうちIPhO2008への参加資格を有する高校2年生以下の生徒9名をIPhO2008日本代表候補者として選出しました。

(9)　第20回国際生物学オリンピック（2009年）の準備

平成21年7月に第20回国際生物学オリンピック（IBO2009つくば）が茨城県つくば市で開催されることを受けて、「国際生物学オリンピック 2009 組織委員会」（委員長：井村裕夫）を組織し、当財団は主催者の一員として構成メンバーに入りました。

組織委員会の下に、小委員会として実行委員会、科学委員会、募金委員会を組織し、平成19年7月25日に設立総会を開催しました。募金委員会（委員長：浅島誠）の第1回準備委員会を10月1日に開き、その後、3回の準備委員会を経て第1回会合を平成20年3月3日に開催しました。

また、秋篠宮殿下を第20 回国際生物学オリンピック（IBO2009 つくば）の名誉総裁

にご推戴申し上げたい旨、お願い申し上げていましたが、12 月1 日付をもってお受けいただけることが決定しました。御就任期間は、平成19年12 月1 日から国際大会閉幕日（平成21年7 月19 日）までとなります。

(10)　第 42 回国際化学オリンピック（2010 年）の準備

2010 年 7 月に第 42 回国際化学オリンピック大会が日本で開催されることを受けて、化学にかかわる産・官・学の連携のもとに実行母体として「化学オリンピック日本委員会」（委員長：野依良治）を組織し、当財団は主催者の一員として構成メンバーに入りました。

日本委員会の下に、実行委員会、科学委員会、募金委員会、財務委員会を組織し、各委員会で準備を進めていますが、12 月 7 日には第 3 回組織委員会を開催し、日本委員会の規約の決定とともに、大会テーマは「Chemistry ： the key to our future」と決定しました。

(11)　日本科学オリンピック推進委員会の事務局業務

国を挙げて、科学オリンピックを通して世界に挑戦する子どもたちを応援し、各オリンピックの活動を支援していくことを目的に、「日本科学オリンピック推進委員会（ＪＳＯＣ）」（会長：江崎玲於奈）を組織し、当財団はこの委員会の運営事務局を担当しています。

各オリンピックの日本委員会と産官学が連携をとりつつ参加者の拡大や認知度の向上を目指し、広報活動の一環として科学技術振興機構と共同して 11 月 23 日～25 日開催のサイエンスアゴラ、11 月 23 日～24 日開催の青少年のための科学の祭典福井大会、12 月 22 日～23 日開催の同鹿児島日置大会、平成 20 年 3 月 1 日～2 日開催の同岐阜大会にブース出展しました。日本教育新聞にて 12 月～3 月にかけて 4 回シリーズの新聞広告やパンフレット・ホームページの作成を行いました。

また、日本化学会の協力を得て第 88 春季年会の中で最終日の平成 20 年 3 月 30 日に立教大学池袋キャンパスにて「国際科学オリンピック日本開催に向けて」というテーマでシンポジウムを開催しました。

(12) キッズ･フロンティア･ワークショップの開催　　（新技術開発財団との共催）

「キッズ･フロンティア･ワークショップ　かがく・夢・あそび　―コピー機の大解剖―」を沖縄県立博物館・美術館と科学技術館においてそれぞれ開催しました。また、第 38 回市村アイデア賞表彰式を 11 月 30 日（金）に科学技術館サイエンスホールにて受賞者、保護者、引率の先生をご招待して実施しました。

(13)　その他の科学技術普及啓発事業

①第 29 回風力エネルギー利用シンポジウムの開催　　（日本風力エネルギー協会との共催）

11 月 28 日・29 日、「第 29 回 30 周年記念風力エネルギー利用シンポジウム」を開催しました。今年のシンポジウムは依頼講演（8 件）、討論会、国内研究者による学術発表（63 件）が行われ、参加者は 350 名でした。

②日本風力エネルギー協会の事務局活動

風力エネルギー利用促進のため「日本風力エネルギー協会」の事務局を担当し、共同で事業を進めました。

③エネルギー変換懇話会の事務局活動

エネルギー技術の発展に寄与するため「エネルギー変換懇話会」の事務局を担当し、共同で事業を進めました。

④科学技術団体連合への協力

科学技術団体連合の副会長団体として、加盟団体と共に科学技術週間の各種行事に協力しました。

⑤第 38 回市村アイデア賞」事業への後援

平成 19 年 11 月 30 日に科学技術館で実施された財団法人新技術開発財団が主催する「第 38 回市村アイデア賞」への後援団体として協力しました。

⑥第 51 回全国学芸科学コンクール」（旺文社主催）への協力

㈱旺文社が主催する「第 51 回全国学芸科学コンクール」科学分野の最優秀作品 1 点に日本科学技術振興財団会長賞を授与しました。（表彰式平成 20 年 3 月 7 日）

⑦「第 7 回科学教育ボランティア研究大会」への後援

平成 19 年 12 月 15 日～16 日に京都リサーチパークで実施された科学教育ボランティア研究大会実行委員会が主催する「第 7 回科学教育ボランティア研究大会」への後援団体として協力しました。

⑧「EARTH　VISION　第 16 回地球環境映像祭」への協力

平成 20 年 3 月 7 日～9 日に新宿区四谷区民ホールで実施されたアース・ビジョン組織委員会が主催する「EARTH　VISION　第 16 回地球環境映像祭」への協力団体として協力しました。

Ⅲ．科学技術館事業

科学技術館の展示更新と整備拡充を図り、広範な層に科学技術への興味や関心を高めてもらうための展示活動を行いました。その他、サイエンス友の会活動や特別展を開催し、特に次世代を担う青少年に対し科学技術に親しみ、科学する心を培う環境づくりを総合的に展開しました。

また、国・地方自治体、企業等が施工する博物館、科学館等教育文化施設の建設に際し、基本構想の策定から設計、製作、施工監理ならびに設置後における運営等について総合的なコンサルティング業務を実施しました。

１．科学技術館運営事業

(1) 展示活動

①展示の更新

1) 4 階「ユニバース」に展示コーナーを新設（出展協力：理化学研究所）

平成 20 年 3 月 31 日、ユニバースホールのエントランスに、㈱理化学研究所等が開発したスーパーコンピュータ「MDGRAPE」の展示コーナーをオープンしました。

2) 4 I「宇宙のひろば」展示室の更新（出展協力：宇宙航空研究開発機構）

㈱宇宙航空研究開発機構では、平成 19 年度事業として当館への出展展示室（旧名称「宇宙情報ライブラリー」）の改装計画を進め、平成 20 年 4 月 1 日に「宇宙のひろば」の名称で新装オープンしました。展示室は、以下の 8 コーナーで構成されています。

・JAXA　NEWS　シアター
・H－ⅡA 模型
・国際宇宙ステーション模型
・地球観測と衛星通信
・Pilot View
・宇宙科学の研究
・宇宙環境の活用
・パソコンコーナー

3)㈳電子情報技術産業協会の新規出展

同協会から展示物の設計・製作を受託し、ＤＶＤ映像「身近な情報システムのしくみ」を 3 階「エレクトロホール」入り口近傍に 8 月 1 日に新規展示しました。出展期間は、平成 21 年 3 月 31 日までです。

4)昭和シェル石油株式会社出展ブース「探検しよう！未来のエネルギー」の更新

同社出展による産業センター展示･旧名称「太陽電池ストーリー」（4 階）を標記の名称で 9 月 21 日に展示更新しました。太陽光発電システムや燃料電池などさまざまな新エネルギーについて紹介しています。

5)日本精工株式会社出展ブース「ベアリングトラベラー」の更新

同社出展ブースは、「ベアリングトラベラー」という名称で 3 月 20 日に更新されました。
小さな機械から大きな機械まで、家の中にも，乗り物の中にも，大空そして宇宙でも使われている「ベアリング」について親しむ展示となっています。

②展示室の整備

入館者が楽しみながら最良の状態で見学ができるよう、展示品の修理、改善を行い、展示室の整備とサービスの向上に努めました。

③展示の解説および実演

展示を楽しみながら理解できるよう次の展示室で、実験の先生、インストラクターによる演示、実験を行いました。（イリュージョン、アクセス、ワークス、オプト、ユニバース、建設館、ＮＥＤＯ、鉄鋼、ガス、電力、自動車、アトモス）

④入館者の安全管理

財団内に設置された CS 委員会と連携して、入館者からの苦情・意見への対応を進め、入館者が安全かつ安心して見学できる環境作りを進めました。

(2) 教育普及事業

①サイエンス友の会活動

小学3年生以上の青少年を主な対象として、科学技術に対する関心を高め、理解を深める機会を提供するため、「サイエンス友の会」を組織し、会員制による各種教室（工作教室、実験教室、パソコン教室、自然観察教室、施設見学会、レオナルド・ダ・ヴィンチ教室）を開催しました。
サイエンス友の会活動は第44期を迎え、会員数は2,192名（活動支援サポーターを除く）でした。
会員の内訳、行事開催回数、参加者数は次の通りです。

1）会員数

（単位：人）

		男	女	合計
会　員	保護者	270	471	741
	被保護者	784	486	1,270
準会員		107	74	181
活動支援サポーター		4	2	6
合　　計		1,165	1,033	2,198

2）行事内容、参加者数　　（単位：人）

行事名	開催回数	内容	参加人数
工作教室	103	テーブルタップ製作、木遊び道具作り、竹とんぼ、和凧、手回し発電機、電子ビックリ箱、IC ラジオ製作　等	1,800
実験教室	101	不思議な色水、清涼飲料水の科学、電気回路を調べよう、酸とアルカリ、合成染料作り、シャボン玉　等	1,673
実験工作教室	29	日時計を作ろう、浮沈子で浮力を学ぼう、ストロー笛の製作、光の３原色と加色混合の実験　等	511
数学教室	2	ハーモノグラフを作ろう	23
自然観察教室	30	北の丸の自然に親しむ、秋が瀬公園の自然観察会、三浦半島磯の生物観察教室、高尾山の自然観察教室　等	1,235
施設見学会	10	理化学研究所、第二立会川幹線工事見学、鹿島製鉄所、ガスの科学館、常磐共同火力㈱と石炭･化石館　等	293
特別教室	20	音の正体、ロボットを作って動かそう、コンピュータプログラムを自作してみよう、等	464
パソコン教室	48	タッチタイピング、ワードで作るオリジナル時間割表、エクセルでおこづかい帳を作ろう　等	491
レオナルド･ダ･ヴィンチ教室	27	レオナルド・ダ・ヴィンチ教室　第 1 期、第 2 期、第 3 期	204
合　計	370		6,694

②パソコン道場運営

コンピュータを活用できる人材を育成するため、科学技術館 4 階「パソコン道場」において各種パソコン講習会の開催、教育ソフトの体験型展示などを行いました。

1)パソコン講習会の開催

･先生のためのパソコン教室（53 回開催、延べ 303 名参加）

内　容：実践ワード講座、実践エクセル講座、インターネット講座、デジタルカメラ活用講

座、ホームページ作成講座、実践パワーポイント講座。

対　象：幼稚園、小中高等学校の教職員および教育関係者

・一般社会人向けパソコン講習会（625 回開催、延べ 3,812 名参加）

内　容：はじめてのパソコン(タッチタイピング講座、マウス操作、キーボード操作、メール入門、ホームページ入門、ワード入門、エクセル入門、USB メモリの使い方、ブログ作成、デジカメ初歩、写真の加工、名刺の作成、案内状の作成）、一日講座(ワード、エクセル、デジタルカメラ活用)、年賀状作成、無料講習会。

外部との共催教室：　ＪＲ東日本ジパング倶楽部との共催講座

㈳日本セカンドライフ協会との共催講座

対　象：主にパソコンを初めて使う一般社会人

・サイエンス友の会パソコン教室（48 回開催、延べ 491 名参加）

内　容：タッチタイピング、3 次元グラフィック、年賀状作り、アニメーション作り、ミニシール作り、画像合成など

2)教育ソフトの展示コーナーの運営

家庭や学校で使える教育ソフトを集め、パソコン教室に隣接した体験展示コーナーにおいて公開しました。

3)パソコン道場ニュースの発行

パソコンに関する情報、パソコンQ&A、教育ソフト・講習会の紹介などを掲載し、年 5 回(7,500 部/1 回）発行しました。東京都内の区・市役所の生涯学習課窓口、生涯学習情報コーナー等に配布しました。

(3)「総合的な学習」、「子どもの居場所づくり新プラン」等の支援活動

総合的な学習や、職場体験学習などのテーマで来館する中学生を中心とするグループの個別のテーマに対する解説や案内活動を実施し、来館するグループの活動の実態把握に努めました。

(4) 調査・研究事業

①博物館における環境技術リテラシーの手法に関する調査・研究～3Ｒ技術編～

（競輪補助事業）

環境に関するリテラシーの 3 つの分野「環境問題」「環境科学」「環境技術」のうち博物館活動において活動方法がいまだ確立されていない「環境技術」のリテラシー手法について調査・研究を実施しました。

②巡回型展示「感覚展 Part2」制作　（日本財団助成事業）

本年度は、昨年度からの 2 ヵ年計画の 2 年目となります。昨年実施した企画会議、基本設計を基に、「感覚とは」「リラックスしている状態」の 2 つのゾーンニング展示の設計書を作成し、制作を行い、平成 20 年 3 月 29 日～4 月 8 日に科学技術館において一般公開しました。

③環境・科学教育用ソフト製作普及整備事業　（日本宝くじ協会助成事業）

「先端環境リサイクル科学技術シリーズ　容器包装リサイクル技術 Vol.2」と題して環境教育用ソフト（DVD）を作成し、全国の科学系博物館や教育関連施設等に配布する事業です。

企画構成、制作工程管理、映像制作、イラスト・アニメーション作成、DVD ソフトのプログラム作成、DVD パッケージの作成、広報用資料の作成、発送等を実施し、平成 19 年度の宝くじ業務を完

了しました。

④地域科学技術理解増進活動推進事業　科学館開発支援　開発・製作等支援業務

（科学技術振興機構受託事業）

表記「科学館開発支援」業務3件のうち「参加者体験型装置等」および「コンテンツ・システム等」の2件を受託しました。それぞれに含まれる開発・製作等支援対象の下記支援館（6館）の業務の開発・製作物、調達購入物を仕様確定から検収までの過程を一貫して監理し、各支援館に納品しました。また、それらを活用して実施される活動について支援しました。

・平成19年度科学館開発支援(参加者体験型装置等)開発・製作等支援業務

「切り口の形をしらべよう」　神奈川県立青少年センター

「いきもの骨パズル」　川崎市青少年科学館

「白と黒のプラネタリウムで星空を楽しもう」かわべ天文公園（和歌山県）

・平成19年度科学館開発支援(コンテンツ・システム等)開発・製作等支援業務

「野草検索装置と野草カードを用いた植物野外観察モデルの開発」　千葉県立中央博物館

「環境に優しいエネルギーの体験学習用ハイブリッドカートの製作」アクアトム（福井県）

「キッチンから大阪湾をよく知るためのワークショップ」　きしわだ自然資料館

(5) 交流事業

①Yerkes Astrophysics Academy for Young Scientists(YAAYS)

（シカゴ大学ヤーキス天文台　NSF補助金）

本事業は、平成18年度から3年間の予定で、シカゴ大学ヤーキス天文台との研究協力をするもので、今年で2年目になります。

ヤーキス天文台の要請により、4月14～15日、5月12～13日、5月19～20日、9月22～23日、10月27日～28日、11月10日～11日、12月8日～9日および平成20年2月9日～10日に、ヤーキス天文台で実施しているユニバースライブショーにおいて、簡易TVシステムを利用して、東京からライブ天体観測を実施しました。晴天時には北の丸望遠鏡で、月のクレーター、木星・土星などを撮像し、その場で解説を加えました。

また、2月19日～26日にシカゴ大学ヤーキス天文台において、YAAYSおよびARCS Teacherのためのワークショップ実施し、科学ライブショー「ユニバース」コンテンツの太陽系シミュレータの使い方、星座カメラi-CANの使い方の指導を行いました。

②Astronomy Resources Connecting School(ARCS)　（シカゴ大学ヤーキス天文台　IMSP補助金）

6月16日～23日に、シカゴ大学ヤーキス天文台、オーロラ大学ウィリアムベイキャンパスにて、教育ワークショップ「北の丸望遠鏡および星座カメラの活用指導」を実施しました。

9月3日～9月7日にシカゴ（米国）でのAstronomical Society of Pacificの第119回年会において、活動のポスター発表を行いました。

9月10日、Oak Park & River Forest高校（ARCS協力校）において、北の丸望遠鏡を用いた授業を実施しました。

③博物館・科学館の魅力を増す星空ライブの常設

（宇宙航空研究開発機構宇宙科学研究本部　科学研究費補助金）

7 月 1～3 日　熊本博物館プラネタリウムおよび南阿蘇ルナ天文台にて、星座ライブ端末設置打合せと星座カメラ改修作業を行いました。

8 月 20 日､21 日　科学技術館宇宙情報ライブラリーにおいて星座ライブ端末のテストおよびアンケートを実施しました。

10 月 7 日-14 日　アメリカフロリダ州　オーランドおよびゲインズビルにおいて､第 39 回アメリカ天文学会惑星科学分科会参加と E/PO のための資料収集、および星座カメラ i-CAN （ローズマリー・ヒル天文台）の改修作業を行いました。

10 月 30 日-11 月 3 日　北海道の松前町、南幌町、札幌市内の小学校にて、星座カメラ i-CAN を用いた、小学校 4 年生理科の授業実践を行いました。

④リアルデータを利用した天体観察教室　　（地域科学技術理解増進活動推進事業補助事業）

宇宙航空研究開発機構/宇宙科学研究本部と連携して下記の通り実施しました。

- 12 月 16 日「コンピュータで探る宇宙「一番近い恒星 ---　太陽」」（科学技術館　15 名）
- 1 月 14 日「一番近い天体　---　月」　（千代田区立富士見小学校　50 名）
- 1 月 31 日「一番近い恒星 ---　太陽」　（大妻女子大学　20 名）
- 2 月 3 日 講演会「科学衛星が映し出す新しい太陽系の姿」　（科学技術館　40 名）

⑤天体教室 トゥインクル・タイム　（子どもゆめ基金補助金）

1)KUDAN 天体教室

・10 月 23 日　「イントロダクション ～星の世界はどんなところ？」
（千代田区立九段小学校　20 名）

・11 月 16 日　「身近な宇宙を調べよう ～３D シミュレーションで見る太陽系」
（千代田区立九段小学校 20 名）

・12 月 17 日「宇宙を見つめるいろいろな目　～実験してみよう」
（千代田区立九段小学校　20 名）

・1 月 15 日「私たちの街から「すばる」はいくつ見えるかな？～天体観察に挑戦しよう」
（千代田区立九段小学校　20 名）

・2 月 15 日「研究にチャレンジ：ガイダンス～　なにができるかな?シミュレーションや望遠鏡でわかること」　（千代田区立九段小学校　25 名）

・2 月 18 日「研究にチャレンジ：やってみよう～いろいろな方法で星の世界を調べよう！」
（千代田区立九段小学校　25 名）

・2 月 29 日「天文学者の仕事 ～みんなもプチ･サイエンティスト」
（千代田区立九段小学校　30 名）

2)都心でチャレンジ！星の数・いくつ見えるかな

・10 月 20 日　「天体観察会　木星」　（科学技術館　40 名）
・11 月 17 日　「天体観察会　月」　（科学技術館　40 名）
・12 月 15 日　「天体観察会　M15　球状星団」　（科学技術館　40 名）
・1 月 12 日　「天体観察会　すばる」　（科学技術館　40 名）
・2 月 16 日　「天体観察会　火星」　（科学技術館　40 名）
・3 月 1 日　「天体観察会　オリオン大星雲」　（科学技術館　40 名）

3)教室に宇宙を！誰でもできるマルチメディアを使った天体教室

・ 11 月 23 日 「教室に宇宙を！ユニバースを使った天体教室」（日本科学未来館 74 名）

⑥研究観測データとシミュレーションを用いた天文教育の最前線

（サイエンス･パートナーシップ・プロジェクト）

⑦その他の交流事業

1)北の丸の公園観察 （千代田区立九段小学校　理数大好きモデル地域事業）

7 月 9 日、11 日、20 日および 22～23 日に、九段小学校（東京都千代田区）および千葉県岩井において、小学校 4 年理科･地球と宇宙の単元について、授業および野外学習を行いました。また、8 月 28 日に九段小学校 PTA との連携事業として、皆既月食を見る会を実施しました。

2)サイエンスフォーラム　科学の鉄人 2008

１年に一度、全国の科学の達人が集まり競い合うサイエンスショーです。１番人気の実演者には、”科学の鉄人”の称号が与えられました。

会　期：2 月 10 日～11 日

主　催：「サイエンスフォーラム　科学の鉄人 2008」実行委員会

(6) 特別展の開催

①夏休み特別展「昆虫力－昆虫から学ぶ科学技術の最先端－」

“昆虫に学ぶものづくり（昆虫模倣工学）”成果品として、産業に生かされる昆虫テクノロジー、医療に生かされる昆虫テクノロジーを展示したほか、３D 昆虫映像を用いた“昆虫形態と内部構造観察”ギャラリーや、昆虫ペーパークラフト教室などの工作･ワークショップを開催しました。また、会期中、監修者である赤池学氏（㈱ユニバーサルデザイン総合研究所所長）、小檜山賢二氏（慶応義塾大学大学院教授）の講演や、サイエンス･バーチャルファイター演劇「昆虫力を知れ」の上演を実施しました。

会　期：8 月 11 日～8 月 26 日

主　催：㈶日本科学技術振興財団･科学技術館

②特別展「ベビーマンモス『リューバ』展」

ロシアの永久凍土から掘り出されたマンモスについて、科学技術を利用することにより発見した新知見を紹介しました。

会　期：平成 20 年 1 月 4 日～2 月 3 日

主　催：㈶日本科学技術振興財団･科学技術館

共　催：読売新聞社、東京慈恵会医科大学

③春休み特別展「感覚・体験フィールド」

人間の主な感覚には視覚、聴覚、味覚、嗅覚、そして触覚がありこれらは五感と呼ばれています。普段見たり、感じたり、食べたりは当たり前の日常生活の出来事であり、感覚も生まれ持った機能です。この当たり前の感覚を再認識し、改めて感覚の知らない部分や、リラックスした時の脳の働きなどを体験する特別展を実施しました。

会　期：平成 20 年 3 月 29 日～4 月 8 日

主　催：㈶日本科学技術振興財団･科学技術館

(7) イベントの開催

①日本ＩＢＭ　TryScience　実験教室

インターネット上の実験レシピを活用した実験教室を開催しました。

開催日：4月15日、5月13日、6月10日、7月8日、8月12日、9月16日、10月14日、11月11日、12月16日、平成20年1月20日、2月17日、3月16日

共　催：日本アイ・ビー・エム株式会社、㈶日本科学技術振興財団･科学技術館

②自然科学写真展―自然の中の不思議を知る―

顕微鏡写真、水中生物、鳥、動物、昆虫、植物、天体・山岳など自然や科学の様々な姿などを紹介しました。

会　期：4月28日～5月31日

共　催：日本自然科学写真協会、㈶日本科学技術振興財団･科学技術館

③2500万人達成記念式典

科学技術館開館以来入館者が2,500万人に達し、2,500万人目の入館者とともに記念式典を開催しました。

開催日：5月2日

④GWイベント「万華鏡工作教室」

入館者を対象に万華鏡工作教室を開催しました。

会　期：5月3日～5日

共　催：日本万華鏡倶楽部、㈶日本科学技術振興財団･科学技術館

⑤WRO　Japan　（World Robot Olympiad Japan）決勝大会

教育的なロボット競技への挑戦を通じて、若者や子どもたちの創造性育成を目的とした自律型ロボットコンテストの日本決勝大会です。7～8月の国内予選で勝ち残った51チーム、約150名が参加し（小学生10組、中学生16組、高校生25組）、日本代表には10チーム（小学生2組、中学生4組、高校生4組）が選ばれました。日本代表は、11月17～18日に国立台湾大学（台湾・台北市）で行われるWRO国際大会に参加しました。

開催日：9月9日

主　催：WRO　Japan実行委員会

⑥第25回マイクロマウス東日本地区大会

迷路を走行する自立知能ロボットの競技会を実施しました。

開催日：9月23日

主　催：マイクロマウス実行委員会東日本支部、㈶ニューテクノロジー振興財団

共　催：㈶日本科学技術振興財団

⑦エネルギー学（まな）フェスタ2007 in 科学技術館

エネルギー大消費地である首都圏に在住する小中学生およびそのファミリーを対象とした標記イベントが科学技術館で開催され、㈶日本科学技術振興財団･科学技術館は、特別後援し、無料開館をしました。

開催日：9月29日

主　催：経済産業省関東経済産業局

⑧エネルギースクエア’07秋

原子力の日にちなんだ標記イベントを実施しました。

・原子力展示室「アトモス」特別解説ツアー　10 月 20 日、21 日、27 日，28 日

・科学戦隊「実験ジャー登場」　10 月 21 日

・工作教室「オリジナルコースターを作ろう」　10 月 20 日～28 日

・エネルギー実験教室　10 月 27 日、10 月 28 日

会　期：10 月 20 日～28 日

主　催：文部科学省、㈶日本科学技術振興財団・科学技術館

⑨第 38 回市村アイデア賞作品展

市村アイデア賞の入賞作品の展示会を下記の通り実施しました。

会　期：11 月 30 日～12 月 16 日

主　催：㈶新技術開発財団

⑩第８回日本万華鏡大賞公募展

優れた創作万華鏡を競う第８回日本万華鏡大賞公募作品の展示を行いました。

会　期：12 月 9 日～16 日

主　催：日本万華鏡倶楽部　㈶日本科学技術振興財団・科学技術館

⑪第 5 回コンストラクション　ワンダーランド

豊かな暮らしを創出する建設業とその役割を理解していただくことを目的として、ワークショップやクイズラリーなどによる標記イベントを４階の建設館とその周辺にて実施しました。

会　期：平成 20 年 2 月 17 日

主　催：㈳日本建設業団体連合会、㈳日本土木工業協会、㈳建設業協会

⑫全国学芸科学コンクール　受賞作品展

旺文社が主催する全国学芸科学コンクールの受賞作品展を科学技術館２階ギャラリーで公開しました。

会　期：平成 20 年 3 月 26 日～4 月 8 日

主　催：㈱旺文社

⑬実験ジャー・バーチャルファイターショー

原子力の標記イベントを下記のように実施しました。

・科学戦隊実験ジャーショー　3 月 20 日～23 日

・サイエンスバーチャルファイター　3 月 26,27,28,30,31 日

会　期：平成 20 年 3 月 20 日～31 日

主　催：文部科学省、㈶日本科学技術振興財団・科学技術館

⑭科学ライブショー

土曜日に以下のゲスト出演者を招き、ユニバースホールにて科学ライブショーを実施しました。

4/ 7　羽尻 公一郎（サンフランシスコ大学），4/14　阿部 知子（理化学研究所），

4/21　山崎 大（国立天文台），4/28　中川 成生㈶東京動物園協会），

5/ 5　小菅 雅代（Le Petit Luxe），5/12　三河内 岳（東京大学），

5/19　平田 宏一（海上技術安全研究所），5/26　吉川 真（JAXA・ISAS），

6/ 9　伊吹山 秋彦（理化学研究所），6/23　古田 ゆかり（ﾘﾋﾞﾝｸﾞ・ｻｲｴﾝｽ・ﾗﾎﾞ），

6/30　森永 修司（東京大学），7/ 7　 平野 秀典（慶應義塾大学），
7/14　高橋 慶太郎 （京都大学），7/21　十亀 昭人（東海大学），
7/28　下条 圭美（国立天文台），8/ 4　藤田 善弘（日本電気株式会社），
8/11　和田 実（東京大学），8/18　宮沢 豊（東北大学），
8/25　高津 貴大（東海大学），9/ 1　松村 陽子（日本ﾐｭｰｼﾞｱﾑﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ学会），
9/ 8　小林 みか（科学技術館），9/15　篠原 学（九州大学），
9/22　野本 知理（ちもんず），9/29　羽尻 公一郎（サンフランシスコ州立大学），
10/ 6　片岡 龍峰（理化学研究所），10/13　成田 憲保（東京大学），
10/27　石井 雅幸（大妻女子大学），11/3　後藤 晶子（名古屋大学），
11/17　新田 伸也（国立天文台），11/24　澤田 幸雄（日本建設産業職員労働組合協議会），
11/ 1　上野 宗孝（東京大学），12/8　身内 賢太朗(京都大学)，
12/15　古徳 純一（国立天文台），12/22　猿渡 敏郎(東京大学），
1/ 5　野本 知理（神戸大学），1/12　平野 秀典(慶應義塾大学)，
2/ 2　宮原 ひろ子（東京大学），2/ 9　柳瀬 亘（東京大学），
2/23　海老沢 研(宇宙航空研究開発機構)，3/1　佐藤 道男（日本建設産業職員労働組合協議会）
3/ 8　上野 宗孝（東京大学），3/15　井出 絵実子（五藤光学研究所)，
3/22　阪本 成一（宇宙航空研究開発機構），3/29　戎崎 俊一（理化学研究所）

⑮ミニイベント

1)FOREST クイズラリー「かがみの国の巻」

5F オプト展示室で、光と色に関するクイズラリーを開催しました。

開催日：6 月 2、3、16、17 日

2)「プレヒストリックパーク」上映

恐竜や古代生物をあつかったイギリスのテレビ番組シリーズ「プレヒストリックパーク」から計 6 種類の作品を上映しました。

会　期：7 月 27 日～8 月 31 日　※他のユニバースホール行事日を除く

3)宇宙航空研究開発機構（JAXA）かぐや／H-Ⅱロケット 13 号機打ち上げライブ中継上映

宇宙航空研究開発機構の生中継で配信した、H-Ⅱロケット 13 号機打ち上げの様子をユニバースホールでライブ上映しました。

開催日：9 月 14 日

4)プレヒストリックパーク　マーヴェンさんトークショー＆上映会

「プレヒストリックパーク」の主演ナイジェル・マーヴェンさんの来日の機会に、トークショーおよび上映会をユニバースホールで開催しました。

開催日：9 月 29 日

5)エコタッチ展　－環境学習のための展示物展－

全国の環境学習施設にある「環境学習のための」「移動可能な」「触れることのできる（ハンズオン）」展示品を集め、展示しました。

会　期：10 月 5 日～10 月 11 日

主　催：環境学習施設ネットワーク（ELCNet）

協　力：㈶日本科学技術振興財団･科学技術館

6)「夢・化学-２１」土曜実験教室

会　期：平成 19 年 11 月～平成 20 年 3 月までの毎週土曜日

主　催：「夢・化学－２１」組織委員会　協力：科学技術館

7)遊び・創造・発見 FOREST プログラム 2007 秋

「身近にあるものからひも解くサイエンス」というテーマで、11 月 11、14、18、20、24 日に 5 つのハンズオン・プログラムを実施しました。

8)ものづくり体験―たたら製鉄シリーズ

新日本製鐵株式会社と共催で、サイエンス友の会行事として君津製鐵所見学会、たたら講演会、たたら製鉄を実施しました。

・11 月 18 日　君津製鐵所見学会

・12 月 1 日　　たたら講演会

・12 月 2 日　　たたら製鉄

9)第 7 回「国土交通 Day」図画・作文コンクール　フォトコンテスト入賞作品展示会

会　期：平成 20 年 2 月 2 日～10 日

主　催：社団法人建設広報協議会

10)高知大学バイオ&アグリ・オープン・スクール

高知の自然が育んだ様々な生物の話と特産品を楽しみながら、地球を守ること、生物を守ること、私たちの食や健康を守ることについて学ぶオープン・スクールを開催しました。

会　期：平成 20 年 3 月１日～2 日

主　催：高知大学農学部、ISK 特化教育プロジェクト

共　催：㈶日本科学技術振興財団・科学技術館

(8) 広報活動

①広報

科学技術館の事業ＰＲ、展示室の更新、特別展、ミニイベントの開催等について、テレビ、新聞、雑誌等に対して記事掲載依頼をするなど積極的に広報活動を展開しました。主な放映、記事掲載は次の通りです。

［テレビ・ラジオ関連］：テレビ朝日「スーパーモーニング」、日本テレビ「世界一受けたい授業」、関西テレビ「ナンボＤＥなんぼ」、フジテレビ「メントレG」、日本テレビ「午後は○○おもいっきりテレビ」、日本テレビ「ザ・ワイド」、フジテレビ「メントレ」、NHK「解体新ショー」、日本テレビ「スッキリ！！」、テレビ朝日「ワイド！スクランブル」、朝日放送　知らぬは日本人ばかり！「世界のニッポン評価書」、テレビ東京「ＳＡＮＰＯ」、フジテレビジョン「トリビアの泉」、NHK「食彩浪漫」、ＴＢＳ「日立世界ふしぎ発見」、日本テレビ「ドタンバ」、朝日放送「ビーバップ，ハイヒール」、エフエム東京、韓国 YTN 放送「YTN サイエンス　Ｉ am ロボット」

［新聞関連］：読売新聞、東京新聞、日本経済新聞、しんぶん赤旗、小学生新聞「どきどきパラダイス」

［雑誌関連］：三菱重工業広報誌「GRAPH]、オーム社ロボコンマガジン、三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング月刊誌「SQUET」、AERA、リクナビ NEXT、月刊誌「ラッタ」、公立学校共済組合「かがやき」、九州電力「quali（クオリ）」、 昭文社「家族でおでかけ秋号 2007」、PHP 研究所「別冊 PHP」、㈱エンターブレイン「週刊ファミ通」、東急電鉄「HOT ほっと TOKYO」、学研「教育ジャーナル」、アステラス製薬「Flying Star」、週刊文春、小学館「ドラえもん 2008」

②入館者誘致

1）団体入館者対策

12 月に次年度の社会科見学および修学旅行の案内資料として、関東地方および福島、長野、山梨、静岡各県の小学校 6,927 校、中学校は東北地方、関東地方などの各県 4,517 校、旅行業者 863 件に当館のパンフレットを送付しました。

2）個人入館者対策

入館者サービス向上と個人入館者増を図るため、科学技術館のホームページ上に入館割引券を引き続き載せました。また、東京の美術館・博物館等の共通入館券「東京・ミュージアムぐるっとパス」スタンプラリー（平成 19 年 4 月 1 日～平成 20 年 3 月 31 日）に昨年に引続き参加しました。また、㈶豊島区勤労者福祉サービスセンターなど 9 団体と平成 20 年度からの利用割引契約について交渉を進めました。

③入館者状況（開館日数 360 日）

個人入館者数	390,221 人	63.5%
団体入館者数	224,128 人	36.6%
合　　計	614,349 人	100.0%

④展示の特別案内

国内外の賓客に対する特別案内は、14 件でした。主なものは次の通りです。

5 月 9 日	東京工業大学大学院理工学研究科 木倉教授	8 名
5 月 24 日	中外製薬株式会社　山中執行役員・社会責任推進部長	3 名
6 月 15 日	文部科学省　遠藤利明副大臣	4 名
6 月 26 日	中華人民共和国貴州省科学技術院	11 名
9 月 29 日	アフリカ混成仏語圏グループ初中等理科教員	25 名
10 月 16 日	トヨタ自動車株式会社　木下光男取締副社長	4 名
11 月 2 日	ドイツ技術者協会　Dr. Ralf Fellenberg 氏	1 名
11 月 14 日	ＪＩＣＡ南西アジア諸国初等理科実験教育ｸﾞﾙｰﾌﾟ	8 名

(9) 巡回展事業

①「七つの体験」、「スポーツの科学展」、「トリックアート展」、「感覚フィールド展」、「マグネット展」、「地球環境展」、など、移動展示物の貸出し

1)遊んで試そう「七つの体験」

・4 月 14 日～16 日　　富山テクノホール
・7 月 21 日～8 月 31 日　　青森県立三沢航空科学館
・9 月 15 日～10 月 28 日　　川口市立科学館

・3 月 22 日～3 月 30 日　　ツインメッセ静岡

2)スポーツの科学展

・3 月 17 日～4 月 17 日　　ムシテックワールド

・4 月 28 日～5 月 6 日　　逓信総合博物館

・7 月 13 日～8 月 26 日　　広島市健康科学館

・7 月 21 日～9 月 2 日　　あいち健康プラザ

・3 月 22 日～3 月 30 日　　ツインメッセ静岡

3)トリックアート展

・4 月 29 日～5 月 31 日　　もぐらんぴあ

・3 月 22 日～3 月 30 日　　ツインメッセ静岡

4)感覚フィールド展

・4 月 26 日～5 月 31 日　　所沢航空発祥記念館

・9 月 15 日～10 月 28 日　　川口市立科学館

5)マグネット展

・10 月 6 日～11 月 4 日　　高崎市少年科学館

・3 月 20 日～6 月 1 日　　つくばエキスポセンター

6)地球環境展

・10 月 6 日～10 月 28 日　　福井原子力センター「あっとほうむ」

7) 出張ユニバース

・8 月 4 日　　相模原市富士見小学校。講師は戎崎俊一氏（理化学研究所）

②実験ショー、科学演劇の上演

1)すずきまどか科学実験ショー

・7 月 14 日　　たつの市総合文化会館赤とんぼ文化ホール

・7 月 22 日　　東京電力株式会社東扇島火力発電所

・7 月 28 日　　東京電力株式会社袖ヶ浦火力発電所

・8 月 25 日　　東京電力株式会社品川火力発電所

・10 月 8 日　　トヨタスポーツセンター

・10 月 13 日、14 日　オリオンビール株式会社 名護工場

・11 月 18 日　　西日本工業大学おばせキャンパス

・3 月 15 日　　郡山市中央公民館

・3 月 20 日　　新潟県立自然科学館

・3 月 29・30 日　　東京電力株式会社　電気の史料館

2)劇団ヤンキー・スタジアムとの連携

サイエンス・バーチャルファイターまたは、実験ジャー

・7 月 24 日～25 日　　青森県立三沢航空科学館

・9 月 1 日～2 日　　幌延町総合体育館

・10 月 6 日、7 日　　福井原子力センター「あっとほうむ」

・10 月 13 日　　長井海の手公園ソレイユの丘

・10 月 28 日　　高崎市少年科学館

・3 月 1 日～2 日　　三沢航空科学館

(10) 学芸活動

①科学技術館学芸活動紀要の発行

「科学技術館学芸活動紀要 Vol.2 2007」を 8 月 31 日に発行しました。

②博物館連携活動

日本博物館協会、全国科学博物館協議会、全国科学館連携協議会などの組織を通して、全国の博物館、特に理工系博物館との連携を深めるとともに、各種博物館会議、研修会等の行事に参加し、情報交換と職員の資質向上を図りました。

・全国博物館館長会議（6 月 13 日　一ツ橋記念講堂）

・全国科学博物館協議会理事会（6 月 14 日～15 日　国立科学博物館）

・第 17 回全国科学館連携協議会総会（6 月 19 日　日本科学未来館）

・東京都博物館協議会常務理事会・理事会及び日本博物館協会東京支部委員会

（7 月 3 日　東京都美術館）

・第 1 回東京都博物館協議会総会・見学研修会（7 月 17 日　サントリー美術館）

・千代田区ミュージアム連絡会（7 月 27 日　千代田区役所）

・日本科学未来館、国立科学博物館との三館交流会（11 月 5 日　日本科学未来館）

・第 55 回全国博物館大会（11 月 15 日～16 日　新潟県長岡市）

・第 143 回科学博物館連絡会（11 月 19 日　東武博物館）

・第 144 回科学博物館連絡会（2 月 21 日　横須賀市自然・人文博物館）

・第 2 回東京都博物館協議会常務理事会・理事会　及び日本博物館協会東京支部委員会

（2 月 21 日　東京都美術館）

・全国科学博物館協議会理事会（2 月 28～29 日　大阪大学中之島センター）

・第 2 回東京都博物館協議会総会　及び㈶日本博物館協会東京支部総会（3 月 5 日鉄道博物館）

③学芸員養成活動

博物館学芸員資格取得を目指す大学生を実習生に受け入れ、博物館実習を実施しました。

・8 月 7 日～12 日（10 日間）　13 大学 13 名

・12 月 11 日～21 日（10 日間）　3 大学 3 名

④北の丸望遠鏡の運用

科学技術館に設置した北の丸望遠鏡で撮像した画像などを、インターネット経由で広く利用していただき、ヤーキス天文台の連携や地域活動において天文教育の拡充を図りました。

(11) 作業部会報告の実現のための活動

①科学技術館活動の定性的評価の実施

サイエンス友の会活動における科学技術理解増進活動の定性的評価を得る目的で、平成 19 年３月、第 43 期の会員を対象にアンケートを発送し、その集計、分析を行い、当該年度事業成果をまとめました。（アンケート用紙発送数：955 件。アンケート回答者数保護者：183 名、子供：224 名）

また、同目的で 44 期の会員を対象に平成 20 年３月にアンケートを発送しました。

②科学技術館における科学技術理解増進活動のための人材確保･強化

～科学技術館サイエンスボランティア活動～

今年度は、サイエンスボランティア活動を開始し、科学技術館への出展企業・機関や当財団の賛助企業を通して募集しました。

7 月 21 日、8 月 12 日、11 月 25 日に研修会を実施し、11 名がサイエンスボランティアに登録しました。サイエンスボランティア活動の実施回数は、平成 19 年度全体で 42 回（参加人数延べ 46 人）でした。

③他館とのネットワーク連携について

地方の科学館、企業館との ICT を活用した連携に関して検討を開始しました。

２．企画開発事業

(1) 教育・文化関連事業

①第 12 回レンガドック活用イベント企画実施支援事業

（レンガドック活用イベント実行委員会受託事業）

「船と海を科学しよう」をテーマに 8 月 18 日、19 日の 2 日間にわたり、横須賀市レンガドック（住友重機械工業㈱浦賀工場）において開催されたサイエンスイベントの企画・運営実施に協力し、サイエンスショー、ワークショップを実施しました。2 日間で約 400 人の小学生を主とする親子の参加者がありました。

②「とっとりサイエンスワールド 2007」イベント主催と運営実施　（鳥取県受託事業）

「美しい数学・楽しい算数との出会い」をテーマに 7 月 15 日、16 日の 2 日間にわたり、鳥取県立県民文化会館において開催された標記イベントの企画・運営実施に協力し、イベント各コーナーの企画運営などを実施しました。2 日間で約 1,800 人の小学生を主とする親子の参加者がありました。

③倉敷市科学館展示製作　（丹青社請負事業）

平成 20 年 4 月リニューアルオープンする倉敷市科学センターのグラフィック原稿作成業務を丹青社から受注し、完了しました。

④鳥取市歴史博物館常設展示装置点検業務　（鳥取市文化財団受託業務）

本業務は、鳥取市歴史博物館における常設展示室の展示装置の保守･維持と、異常発生の未然防止を主目的として、年 1～2 回の点検、調整などを行う業務です。常設展示「村々のくらしと風景」のグラフィックの一部更新及び情報展示のシステムの構築及びＤＶＤ構築や保守を行いました。

⑤青森県立三沢航空科学館メンテナンス業務　（NPO 法人テイクオフみさわ受託事業）

青森県立三沢航空科学館の展示保守とイベント事業を受託しています。

展示保守については、定期点検、展示保守を計画的に実施しました。

イベント事業については、特別展「トリックアートⅡ」（4 月 28 日～5 月 31 日）、夏休み特別企画展「感覚体感フィールド展」（ 7 月 21 日～8 月 31 日）、「サイエンス・バーチャルファイター　夏休みスペシャルーチャーリー西村参上の巻ー」（7 月 24 日～25 日）、イベント事業は、「おまちかね米村傳次郎先生の登場です」（1 月 14 日）、「チャーリー西村＆ミスターＸ　～科学Ｖ

Ｓサイエンスマジックショー～」（3 月 1 日～2 日）を実施しました。

⑥平成 19 年度　環境測定分析統一精度管理調査業務　　（日本環境衛生センター受託事業）

情報システム開発部と協力して平成 19 年度の精度管理システムを開発し、同システムおよび報告書回収システムを公開しました。

また、平成 19 年度の分析結果（19 種類）の受付を実施しました。そこで平成 19 年 11 月までに回収した分析結果報告書を取りまとめ、中間報告など分析参加機関への情報提供を行いました。

また、精度管理検討部会（日本環境衛生センター主催）、検討会（環境省主催）に出席し、今年度取組状況の報告及び平成 20 年度の検討を行いました。

⑦船の科学館来館者満足度調査等業務　　（日本海事科学振興財団受託事業）

8 月 11 日～17 日に船の科学館においてアンケート調査を実施し、報告書を 10 月末に提出しました。

⑧ハンセン病データベース PC 供与業務　　（笹川記念保健協力財団受託事業）

平成 18 年度までに開発したハンセン病資料データベースシステムをスタンドアローン PC にインストールし、各ハンセン病関連施設に納入しました。

⑨平成 19 年度自然環境保全センターの展示設計業務委託

（神奈川県自然環境保全センター受託事業）

神奈川県自然環境保全センターの展示館新築について、プロポーザル資料提出を行い、その提案が採用されました。3 月末に設計図書及び報告書を納品して完了しました。

⑩平成 19 年度 科学的思考に沿った環境実験プログラムの開発等業務　　（環境省受託事業）

今年度は、3 プログラム（「酸性雨ってなんだろう？」「汚れた空気がやってくる？（酸性雨と大気汚染）」「これが大気汚染だ！（光化学反応と酸性雨）」）を開発しました。開発したプログラムは、科学技術館にて実証実験を実施し、その結果を反映させ、5 か所の教育普及施設（さいたま市青少年宇宙科学館、所沢航空発祥記念館、アクアトム（敦賀）、小田原市川東センター（神奈川県立青少年センター主催）、郡山市ふれあい科学館）で普及実演を行いました。3 月末日、事業報告書を環境省に提出し事業を完了しました。

⑪大成高校・風のミュージアム展示更新計画　　（大成高校受託事業）

大成高校・風のミュージアムの部分改装に向け、基本計画案を作成提出し、設計作業を実施しました。それに基づき展示室の 1/3 程度を部分改装し 4 月にリニューアルオープンしました。

Ⅳ．情報システム事業

１．簡易放射線測定器「はかるくん」の貸出し委託業務　　（文部科学省受託事業）

本事業は、文部科学省研究開発局開発企画課立地地域対策室から受託した業務であり、一般市民および小・中・高等学校等の団体を対象に簡易放射線測定器「はかるくん」を無料で貸出し、それを用いた身の回りの放射線測定等を通して、放射線の存在を身近に実感してもらうことにより、放射線に

関する知識の普及と理解増進を図るものです。

平成12年度から昨年度まで受託していた自然環境・放射線Web業務における簡易放射線測定器「はかるくん」の利用実績や、その事業における先生方のネットワークを活用し年間貸出し目標を21,000台に設定しました。3月末の実績値は28,413台であり、目標値を大幅に上回る結果を残すことができました。また、簡易放射線測定器「はかるくん」を用いた説明会については、当館を含め地方科学館等において、84回実施し、放射線に関する基礎知識と「はかるくん」の貸出し制度の普及に努めました。

また、本事業では、「はかるくん」事業評価委員会及び「はかるくん」実践・研究作品審査会を組織し、事業内容を評価及び実践・研究作品審査を行い、報告書を取りまとめました。

「はかるくん」事業評価委員会

委員長	中村　尚司	東北大学名誉教授
委　員	碧海　酉癸	消費生活アドバイザー
委　員	井上　チイ子	社団・女性職能集団WARP理事長
委　員	東嶋　和子	科学ジャーナリスト
委　員	西原　英晃	京都大学名誉教授
委　員	松浦　辰男	放射線教育フォーラム理事　事務局長
ｵﾌﾞｻﾞｰﾊﾞ	櫻井　清人	文部科学省　研究開発局開発企画課立地地域対策室長
ｵﾌﾞｻﾞｰﾊﾞ	大縄　哲也	文部科学省　研究開発局開発企画課立地地域対策室　企画係

「はかるくん」実践・研究作品審査会

審査員長	飯本　武志	東京大学環境安全本部准教授
審 査 員	秋庭　悦子	NPO法人あすかエネルギーフォーラム理事長
審 査 員	浅田　浄江	ウイメンズ・エナジー・ネットワーク（WEN）代表
審 査 員	市村　毅	つくば吾妻小学校教諭
審 査 員	大橋　篤	奈良教育研究所指導主事
審 査 員	戸田　一郎	（有）ラド取締役、元富山第一高等学校教諭

２．平成19年度電源立地推進調整等事業（放射線教室）　（東北経済産業局受託事業）

本事業は、東北経済産業局資源エネルギー環境部資源エネルギー環境課総合エネルギー広報室から受託した業務です。電源立地地域において、次世代を担う中学生を対象に放射線について正しい知識として、自然界に存在する放射線の認識や、生活の中での放射線の利用など、社会に役立っていることを理解してもらうことを目的としています。

本年度は、下記の日程で青森県東通村にある中学校3校で放射線教育を実施しました。

東通村立南部中学校　：12月10日（月）13：30～15：10
　　1年生　1クラス　20名

東通村立北部中学校　　：12 月 11 日（火）10：30～12：10
1 年生　1 クラス　26 名
東通村立小田野沢中学校：12 月 11 日（火）13：40～15：20
1 年生　1 クラス　8 名

３．平成 19 年度原子力安全規制情報広報・公聴事業の委託業務　（経済産業省受託事業）

本事業は、経済産業省原子力安全・保安院原子力安全広報課から受託した業務であり、原子力の安全規制に関して、国の制度や組織体制、原子力保安検査官事務所の取組に至るまでの様々な情報を分かりやすい内容で、また、欲しい情報に簡単にアクセスすることができるホームページ等を紹介していくことを目的に、原子力の安全に関するページとメールマガジンの企画・制作・運営およびオンデマンド配信を実施するものです。

本年度は、メールマガジン第 62 号から第 74 号までの発行および音声配信サービスを行い、原子力の安全に関連するホームページ（NISA 通信、各種シンポジウム、住民説明会、原子力安全保安検査官事務所、原子力防災訓練等）を製作しました。また、各種シンポジウム、住民説明会、NISA 紹介ビデオ、NISA-TV 等の動画配信を実施しました。さらに、本事業の総括として事業報告書の取りまとめを行いました。

４．「原子力の日」ポスターコンクール事業　（日本原子力文化振興財団受託事業）

本事業は、文部科学省と経済産業省資源エネルギー庁との共催事業であり、㈶日本原子力文化振興財団が受託し、当財団が協力している事業です。10 月 26 日は「原子力の日」と言われており、昭和 31 年に日本が国際原子力機関（IAEA）憲章に署名した日と、昭和 38 年に初めて原子力発電に成功した日であったことから設けられた記念日です。この記念日に「地球温暖化問題と原子力」、「くらしを支える原子力発電」、「活躍する放射線」などをテーマにポスターを募集しました。

本年度は、科学技術館メールマガジンを利用した募集・サイエンス友の会への案内・科学技術館来館者へのチラシ配布等の周知を行いました。また、科学技術館および地方科学館等でのイベント（お絵かき教室）を開催し、1,553 件の作品応募がありました。

５．平成 19 年度科学技術振興に関する開発研究等補助事業　（競輪補助事業）

本事業は、「ウェアラブル機器を利用した科学館学習支援システムに関する研究開発」というテーマで補助金を受けた事業です。

本年度は、科学技術館事業部と連携を密にし、インストラクターを含む関係者の意見を参考に実用に向けたシステムの研究開発を実施することとし、科学技術館各階展示ブースにて、記銘支援試作システムおよびモバイル科学技術館学習支援システムに関する実証実験を行いデータの収集と分析を行いました。

本事業では、ウェアラブル機器を利用した科学館学習支援システムに関する研究委員会を組織し、

調査研究の実施内容検討と実証実験結果について評価し、報告書を取りまとめました。

ウェアラブル機器を利用した科学館学習支援システムに関する研究委員会

委員長	廣瀬　通孝	東京大学大学院　情報理工学系研究科　教授
委　員	池井　寧	首都大学東京　システムデザイン学部　准教授
委　員	季里	株式会社七音社　取締役
委　員	葛岡　英明	筑波大学大学院　システム情報工学研究科　教授
委　員	椎尾　一郎	お茶の水女子大学　理学部情報科学科　教授
委　員	蔵田　武志	独立行政法人　産業技術総合研究所　研究員
委　員	西岡　貞一	筑波大学大学院　図書館情報メディア研究科　教授

６．自主研究開発事業

本事業は、科学館、博物館などにおけるＩＴ活用として相応しい研究・開発テーマを「次世代科学館情報環境の研究開発」として取り上げ、大学等の研究機関との連携による自主研究開発事業として展開することにより、情報処理技術の研究開発とその促進及び情報の提供を推進しました。

(1) 他者とのコミュニケーションを支援する博物館遠隔鑑賞システムの研究開発

何らかの事情で博物館に来館することのできない人が、博物館に設置されているロボットを遠隔操作することによって、展示物を鑑賞することができるシステムの研究開発を筑波大学葛岡研究室との共同研究として実施しました。本年度は、実証実験として、科学技術館内にてロボットを用いた鑑賞行動の実験を 3 回行いました。

(2) 博物館における教育情報発信に関する研究

本事業は、次世代科学館情報環境の研究開発として「博物館における教育情報発信に関する研究」を行うものです。特別なコンピュータの知識を必要とせず容易な操作でリアルタイムに教育情報を発信可能とするシステムを構築し、その有用性を検証するものであり、独立行政法人理化学研究所戎崎計算宇宙物理研究室と共同研究契約を締結して実施しています。

本年度は、独立行政法人科学技術振興機構(JST)が提供する科学技術・理科教育用デジタル教材配信システム「理科ねっとわーく」のシステム更新業務の受注を契機に、博物館だけでなく各地の教育センター、学校等、教育情報を扱うあらゆる機関においても利用可能な基盤システムとして広く公開することを目的に「理科ねっとわーく」のオープンソース化を検討テーマに加え、JST と調整を行うための検討を行いました。

７．受託開発事業

次のシステム開発・運用事業を受託しました。

(1) 情報処理システムの研究開発

・外務省　地域別・国別 ODA 供与目標額システム作成支援

・経済産業省　会議室予約システムの機能拡充
・㈱新エネルギー・産業技術総合開発機構・資産管理システムに係る管理機能改修
・㈱新エネルギー・産業技術総合開発機構・成果フォローアップシステムの拡張業務
・㈱新エネルギー・産業技術総合開発機構・保有鉱区管理システムのバージョンアップに伴う計画図等の更新業務
・大学共同利用機関法人・人間文化研究機構・国文学研究資料館・スパムファイアウォールの導入設定作業
・警察庁方式運転適性検査 73-2 型タブレットシステムの開発

(2) ＰＬＭおよびその関連システムの研究開発
・PLM (Product Lifecycle Management)システムの構築
・PLM システム推進の技術支援業務

(3) マルチメディア・データベースシステムの研究開発
・㈱科学技術振興機構 科学技術・理科教育のための革新的なデジタル教材の制作
・㈱科学技術振興機構 科学技術・理科教育用デジタル教材提供システムの更新
・㈱環境再生保全機構 日本の大気汚染公害経験データベースシステム維持・管理業務
・国立ハンセン病資料館情報システムの更新

(4) 新エネルギーシステムの研究開発
・㈶電力中央研究所 ガスタービン保守最適化支援システム機能検証
・電力計算センター 分散型電源の自立運転安定化方式解析計算

(5) その他
・文部科学省 平成 19 年度学びんピック Web 広報サーバ運用管理
・環境省 平成 19 年度ジフェニルアルシン酸等の健康影響に関する調査研究業務
・㈱科学技術振興機構 連携事業 Web サーバ保守
・㈶日本自転車普及協会システム保守
・㈶電源地域振興センター　電源立地地域交付金データエントリー業務
・㈳電子情報技術産業協会　統計システム運用業務
・㈶産業環境管理協会他 1 法人向け　通信教育システム運用
・㈳日本経営協会 通信教育支援システム(LBSS／T) 設計作業
・通信教育団体 44 法人向け　SuperGrace システム運用
・㈻科学技術学園 PC ネットワーク運用支援
・㈻産業能率大学債権管理システム開発および会計システム等運用保守
・㈻尚志学園 教務事務 OA システムの導入作業および稼動維持
・IC カード発行システム技術支援業務
・インテリジェント CAD 運用支援業務
・物理チャレンジホームページの更新・運用管理
・国際生物学オリンピックホームページの更新・運用管理

８．情報処理サービス事業

インターネット等を活用した情報処理サービス事業を実施しました。

アウトソーシングサービス事業

・通信教育 Web 受講申込システムの運用

・通信教育成績報告支援サービス

・通信教育支援システムの運用

Ⅴ．所沢航空発祥記念館運営事業

埼玉県が平成 5 年 4 月にオープンした所沢航空発祥記念館の管理運営業務を埼玉県公園緑地協会から受託している事業であり、当財団の経験や実績を活かし、青少年をはじめ一般を対象とした展示活動から建物および展示施設までの全般的な管理業務を実施し、わが国の科学技術の普及啓発に貢献している事業です。来年度からは指定管理者制度が適用され、当財団は埼玉県公園緑地協会とパートナーを組み応募し、指定管理者として選定されました。

１．展示活動

(1) 展示資料の収集

団体および個人から航空に関する書籍、写真資料等約 148 点を収集しました。

・野崎豊氏　　九七式輸送機取扱説明書他 81 点

・町田哲也氏　　C-X 原型模型他 2 点

・上田美恵子氏　絵葉書セット 1 点

・田中芳子氏　　絵画 64 点

(2) 展示の更新

①戦後初の純国産ジェット練習機 T1-B 用ジェットエンジンのテールパイプの設置

わが国独自の技術で､機体からエンジンまで設計製作された T1-B ジェット練習機用ジェットエンジン J3 のテールパイプが自衛隊より貸与され、11 月 26 日設置し一般公開しました。

②全展示品の解説装置の更新

開館以来 15 年間使い続けてきた映像解説ディスプレイを最新の液晶ディスプレイに更新しました。

③航空遺産の展示新設

記念館が所有する航空遺産である中島九一式Ⅱ型戦闘機胴体部分を常設展示室に9月11日より展示を開始しました。当資料は世界でも一機しか存在しない貴重な航空資料と航空遺産保存活用検討委員会で評価されたもので、関係者からの常設化の要請を受けて今回の展示となりました。関連資料の展示も期間限定で行いました。

④「セスナ T310Q」操縦装置の改善

セスナの操縦装置や操縦席を改善して、信頼性を高めました。

⑤「大型映像館」上映フィルムの更新

巨大スクリーン、高画質のＩＭＡＸシステムによる大型映像館では、次の通り年間を 4 期に分け各期１本ずつ合計 4 本の作品を上映しました。

・4 月 1 日～ 6 月 30 日 「まじめにふまじめかいけつゾロリ」

・7 月 1 日～ 9 月 30 日 「アースストーリー～恐竜の進化とヒトの未来」

・10 月 2 日～ 1 月 4 日 「ロストワールド～生命の不思議を求めて～」

・1 月 5 日～ 4 月 6 日 「銀河鉄道９９９　星空はタイムマシーン☆太陽系　恐竜絶滅篇」

⑥収蔵庫に空調システムを設置

貴重な航空遺産を保存している収蔵庫に空調システムを設置し、安定した保存が出来るようにしました。

(3) 航空遺産資料の調査研究

①保存環境測定システムによる温湿度測定や経年劣化による機体板圧測定を行いました。

5 月 8 日　九一式実物資料活用評議員会を開催し、実施チーム公募のための要綱の検討を行いました。

6 月 11 日　上記評議員会の検討に基づき、埼玉県として実施チームの公募を開始しました。

12 月 28 日　機体資料の金属劣化状態を測定するため、板圧測定を実施しました。

②中島九一式実物資料が、財団法人日本航空協会から重要航空遺産として認定されました。

3 月 28 日 中島九一式実物資料が、財団法人日本航空協会から重要航空遺産として認定され、その価値を高く評価されました。

(4) 学芸活動

①イカロス出版「月刊Ｊウイング」編集部からの依頼により、同誌 4 月号のエッセー「私の五ツ星ヒコーキ」に当館所蔵の「中島九一式二型戦闘機（胴体部）」に関する専門情報の原稿を執筆し掲載されました。

②東京新聞社さいたま支局からの依頼により、同紙「さいたま宝物」コーナーに当館所蔵の航空機やそれに関連する専門情報について、以下の原稿を執筆し連載されました。

3 月 27 日付「会式一号機と国産機」

4 月 10 日付「ニューポール８１Ｅ２と航空機の保存」

4 月 24 日付「日本最初の墜落死亡事故者　木村・徳田両中尉と航空の安全」

２．特別展等の開催

(1) 特別展の開催

①GW 特別展「感覚・体験フィールド」の開催

会　　期　4 月 28 日～5 月 31 日

内　　容　科学技術館の巡回展示物を借用してのイベントで、7 つの感覚を測定できる実験装置から構成されています。それぞれの測定装置を体験していく中で、自分自身の感覚の老化や器用さ等について再発見することができます。

協　　力　科学技術館

②夏休み特別展「恐竜ワンダーランド」の開催

会　　期　　8月1日～9月2日

内　　容　　鳥のルーツをたどると、白亜紀に絶滅した恐竜に辿り着くという説に基づき、謎とロマンに満ちた恐竜について、魅力的な展示とバラエティ溢れる各種ワークショップで紹介しました。

構　　成　　・恐竜の全身骨格-カマラサウルス幼体、エオラプトルなどの展示
・恐竜の卵の化石-トロオドン、ヒプセロサウルス
・デジタル恐竜図鑑
・国内で発掘された化石
・恐竜ゲーム
・恐竜チョロQ
・恐竜たまごパン教室～夏休みの思い出にオリジナルの恐竜たまごパン作り～
(8月22日、23日)
・化石クリーニング教室～岩石から化石を取り出す～(8月2日、12日、18日)
・アンモナイトの化石レプリカ作り(期間中終日)

協　　力　　群馬県立自然史博物館、東京電力志木支社、日向重光氏

③秋の特別展「特別便へのご招待～VIPフライト・記念フライト・政府専用機～」の開催

会　　期　10月20日～12月2日

内　　容　21世紀の今日、飛行機はだれもが利用できる乗り物ですが、利用者が制限された「特別なフライト」も実は存在します。VIPを対象とした「スペシャルフライト」、個人・団体等が機体を借り切って利用する「チャーターフライト」、救援に当たる「レスキューフライト」そして機体の導入や退役、新規路線の開設時等に行われる「記念フライト」です。「スペシャルフライト」は今日では政府専用機がその役割を担い、新聞・テレビ等で頻繁に紹介されています。今回、従来殆ど知られることが無かった特別便の世界を紹介しました。主に航空マニア対象とした特別展です。

協　　力　株式会社日本航空、株式会社JALグランドサービス、株式会社ティエフケー、航空自衛隊、茨木浩一郎氏、荷見三七子氏

④新春イベント「ロマンを彩った黎明期の翼-彩色絵葉書・古写真より」

会　　期　平成20年1月25日～2月11日

内　　容　黎明期における飛行機を彩色絵葉書のコレクションと収蔵している写真で紹介しました。

協　　力　加藤寛之氏

⑤収蔵資料展

会　　期　平成20年2月23日～3月9日

内　　容　今年度寄贈された写真資料を中心に一般に公開しました。

⑥春休み特別展「銀河鉄道９９９の世界」の開催

会　　期　平成20年3月20日～4月6日

内　　容　銀河鉄道アニメ化30周年を記念して銀河鉄道９９９の世界をジオラマやセル画、ワークショップ、ミニSLの実物で楽しく紹介しました。

協　　力　株式会社タイトー、東京電力志木支社、日本工業大学工業博物館、岩井則親氏

⑦ゴールデンウィーク大型映像フェスティバル

会　　期　4月21日～5月6日

内　　容　通常上映作品「まじめにふまじめかいけつゾロリ」の他に「オーシャンオアシス」を加えて上映しました。

⑧夏休み大型映像フェスティバル

会　　期　8月4日～8月19日

内　　容　通常上映の「アーススストーリー～恐竜の進化とヒトの未来～」の他に「ダ・ヴィンチの夢、飛べ！科学と冒険の風に乗って」を加えて上映しました。

⑨秋の大型映像フェスティバル

会　　期　10月27日～11月11日

内　　容　通常上映の「ロストワールド～生命の不思議を求めて～」の他に、「ダイナソーＤＸ～パタゴニア・巨大恐竜を求めて」を加えて上映しました。

⑩春休み大型映像フェスティバル

会　　期　平成20年3月15日～3月30日

内　　容　通常上映の「銀河鉄道９９９　星空はタイムマシーン☆太陽系　恐竜絶滅篇」の他に「ディノプラネット」と「天までとどけ」を加えて上映しました。

(2) ミニイベント

①ＳＬＢプラモデル作品展

会　　期　5月3日～5月6日

内　　容　模型飛行機同好会ＳＬＢと共催でプラモデル飛行機約100点の作品展を行いました。

②クリスマスコンサート「音楽のおくりものVol.4」

会　　期　12月23日

出　　演　CLOVER STRING QUARTET （クローバーストリングカルテット）

内　　容　ロビーに高さ4mのクリスマスツリーを設置し、「季節」「旅」をテーマにしたプログラム構成で楽しいおしゃべりとともにクリスマスムードを盛り上げる曲を弦楽四重奏により展示館特設ステージで演奏しました。

③新春凧工作教室

会　　期　平成20年1月3日

内　　容　正月恒例の凧制作の指導を実施し、今年は正月らしい「こま」をイメージした「こま凧」の製作を行いました。

３．公開講座の開催

(1) テーマ「室内飛行機の過去・現在。未来」

会　　期　6月16日

内　　容　第一部「日本の室内飛行機の歴史」

わが国の室内飛行機の歴史についてエピソードも交えて解説しました。

講　　師　野中繁吉氏　　日本模型航空連盟<JMA>監事

内　　容　第二部　無線操縦飛行機「エアロソアラ」の開発とその魅力」
超小型の無線飛行機の開発のエピソードを交えて解説しました。
講　　師　㈱タカラトミー　氏田治久氏（ボーイズホビー開発チーム）
㈱ファルファーラ　宗像俊龍氏（inventor）

(2) テーマ「オリジナル絵葉書発売記念」
会　　期　7月29日
内　　容　ミュージアムショツプで初めての黎明期における代表的な機体のオリジナル絵葉書企画販売を記念して、2人の講師により分かりやすく解説しました。
講　　師　田中昭重氏　所沢航空資料調査収集する会副会長
斉藤政登氏　当記念館航空機インストラクター

(3) テーマ「航空交通管制と東京航空交通管制部施設見学会」
会　　期　9月20日
内　　容　航空管制の実際について、トピックスも交えて解説しました。
講　　師　松本里華氏　国土交通省東京航空交通管制部航空管制官

(4) テーマ「特別便のすべて」
会　　期　11月17日
内　　容　第一部チャーターフライト「プライベートチャーター便のすべて」
講　　師　望月浩嗣氏　㈱日本航空国際営業部課長補佐
内　　容　第二部　政府専用機「先任客室乗務員から見た政府専用機」
講　　師　山野滋久氏　航空自衛隊　航空保安管制群本部防衛部長２等空佐
児玉恭子氏　航空自衛隊　航空開発実験集団司令部人事課長２等空佐

(5) テーマ「埼玉県のドクターヘリ」
会　　期　2月16日
内　　容　先駆的にドクターヘリを導入した埼玉県での事例を解説しました。
講　　師　朝日航洋株式会社　東日本航空支社　松江久三郎氏他

(6) テーマ「埼玉県の防災ヘリコプター」
会　　期　3月15日
内　　容　森林火災や震災での救護を行う防災ヘリの実際について解説しました
講　　師　埼玉県防災航空隊　隊長　鈴木直博氏他

４．格納庫・収蔵庫およびＹＳ－１１機の特別公開

屋外展示「ＹＳ－１１機」と別棟にある格納庫・収蔵庫を一般に公開し機体の解説と来館者の安全確保を行いました。

公開日	屋外展示「ＹＳ－１１機」	格納庫の展示	備　　考
4月 7日	一般公開と質問対応	一般公開と機体の解説	市民文化フェア
4月 8日	一般公開と質問対応	一般公開と機体の解説	市民文化フェア
4月 21日	一般公開と質問対応	―	特別公開日
10月 27日	雨天中止	一般公開と機体の解説	市民フェスティバル
10月 28日	一般公開と質問対応	一般公開と機体の解説	市民フェスティバル
11月 14日	一般公開と質問対応	一般公開と質問対応－	埼玉県民の日

５．「県民の日」記念事業

会　　期　11月14日

内　　容　埼玉県民の日を記念して、記念館の各施設（展示館、大型映像館、格納庫・収蔵庫、ＹＳ－１１機）を一般に無料公開しました。入場者は合計8,249 名でした。

６．連携活動

4月13日　埼玉県博物館連携協議会西部地区会議に出席しました。

4月 23日「土の中のいきもの教室」が東京電力株式会社志木支社と㈶埼玉県公園緑地協会との共催で実施され、これに協力しました。

4月26日　埼玉県博物館連携協議会総会に出席しました。

6月14日　全国科学博物館協議会総会に出席しました。

9月12日 所沢市立北小学校の総合学習での見学に解説を行い、学校との連携を深めました。

9月13日 日野式のレプリカを製作した日本工業大学の見学に解説を行い、学校との連携を深めました。

10月26日 所沢市小中学校教頭研修会で記念館利用の説明を行いました。

11月 3日 入間航空祭に参加し、最新の航空機の調査を実施しました。

11月 12日、13日 JSTC2007 において大型映像の現状と今後について調査し、来年度の運営に生かすための調査を行いました。

12月 10日 全科協主催のボランティア研修会に出席しました。

1月 30日 埼玉県博物館連絡協議会研修に出席しました。

2月 16日 原子力 PA の一環として霧箱のワークショップ開催に協力しました。

2月 28、29日　全国科学博物館協議会総会に出席しました。

3月 16日 環境実験に関するワークショップ開催に協力しました。

3月 28日 所沢航空記念公園開園 30 周年事業を緑地協会と連携して実施しており、その第一弾として沈床茶園の点灯式を、地元所沢の関係者を招いて実施しました。

７．資料の貸出し

11月 2日 日本工業大学工業博物館の特別展に展示する当館収蔵資料 5 点の貸出しを行いました。

８．航空機インストラクター活動

航空機インストラクターとして登録されたボランティアにより次の活動を行いました。

(1) 飛行機教室の開催

・毎月の第2・4土曜日に開催し、紙飛行機やゴム動力飛行機の製作指導を行いました。
また、奇数月の第１日曜日など年6回の室内飛行機の製作指導も行いました。

(2) 展示航空機保守メンテナンス

・展示航空機の保守メンテナンスを実施しました。

(3) 展示解説

・格納庫・収蔵庫、ＹＳ－１１機の一般公開時に展示航空機に対する質問対応を行いました。
・常設展示の解説およびジャンボシミュレータの操作指導等を行いました。

(4) 「総合的な学習の時間」で来館した児童・生徒の質問に対する質問対応を行いました。

・当館に「総合的な学習の時間」で来館した児童・生徒の質問に回答しました。

(5) 収集資料の整理

・博物館に寄贈された資料を資料分類に沿って分類整理を行いデータベースに登録しました。

９．広報活動

(1) 一般広報

・埼玉県政記者クラブ・所沢市政記者クラブおよび他のマスコミ関係に対し展示更新、映像ソフト変更時に資料を提供し、記事掲載、取材等の依頼を行いました。
・埼玉県内および都内、近県の主要博物館にポスター掲示とチラシの配布を依頼しました。
・航空公園駅内に案内看板を設置しＰＲを常時行いました。
・マスコミ各社の取材や各企業の社内報の掲載取材にも対応し、ＰＲを行いました。
・彩の国だより（埼玉県発行）、翔びたつひろば（所沢市発行）に記事掲載を依頼しました。
・ホームページを利用して広報を行いました。

(2) 特別展広報

・埼玉県政記者クラブ・所沢市政記者クラブおよび他のマスコミ関係に対し企画書等の資料を提供し、記事掲載や取材等を依頼しました。
・彩の国だより、翔びたつひろばに開催告示の掲載を依頼しました。
・所沢市周辺の児童館、学童クラブ、小中学校に対しＰＲ用ポスターの掲示、チラシの配布を依頼しました。
・埼玉県内および都内、近県の博物館にポスターの掲示を依頼しました。
・新聞広告による告知を行いました
・航空公園駅の駅頭のYS－11展示場フェンスに横断幕を設置しました。
・西武線の電車内やターミナル駅にイベントの広告を掲示しました。
・高速道路のサービスエリア2箇所に記念館の広報資料を配置した広報を行いました。
・所沢市の広報誌に広告を掲示しました。

(3) 団体誘致活動

・埼玉県内および都内・近県の幼稚園、保育園、小・中学校にパンフレットを配布しました。

・埼玉県内および都内・近県の旅行業者に対しパンフレットを配布しました。
・埼王県内および都内の児童館に対しパンフレットを配布しました。

１０．入館者状況

開館日数 309 日

（単位：人）

		平成 19 年度	平成 18 年度
有料	展示館入館者数	71,033	69,895
	大型映像館入館者数	22,323	18,143
	小計	93,356	88,038
無料	展示館入館者数	109,636	125,859
	大型映像館入館者数	33,294	28,285
	小計	142,930	154,144
合計		236,286	242,182